佐久市埋蔵文化財調査報告書　第154集

岩村田遺跡群　西一本柳遺跡XV

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡XV発掘調査報告書

2008.3
株式会社　彩工舎
佐久市教育委員会

例　言

1　本書は株式会社　彩工舎による店舗兼貸店舗新築工事に伴う岩村田遺跡群　西一本柳遺跡ＸＶの発掘調査報告書である。
2　事業主体者　御代田町塩野 400-158　株式会社　彩工舎
3　調査主体者　佐久市中込 3056　佐久市教育委員会　教育長　木内　清
4　遺跡名及び発掘調査所在地　　岩村田遺跡群　西一本柳遺跡ＸＶ（ＩＮＰ　ＸＶ）
　　佐久市岩村田常木上 2329 番 1
5　調査担当者　上原　学
6　本書の編集・執筆　上原　学
7　本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1　遺構の略称は以下の通りである。
　Ｈ－竪穴住居址　　Ｄ－土坑　　Ｆ－掘立柱建物址　　Ｍ－溝跡　　Ｐ－ピット
2　スクリーントーンの表示は以下のとおりである。

遺構－地山断面　　粘土　　焼土

遺物－赤色塗彩　　黒色処理　　須恵器断面

3　挿図の縮尺は以下の通りである。　遺構－竪穴住居址・土坑・掘立柱建物址・溝跡・ピット－ 1/120
　　遺物－弥生式土器・土師器・須恵器－ 1/6　　鉄器－ 1/4
4　遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5　遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
6　調査グリッドは小グリッド４×４ｍ、大グリッド 40 × 40 ｍである。

目　次

例言・凡例・目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯
第１節　立地と経過……1　　第２節　調査体制……1　　第３節　遺跡の概要……2
第Ⅱ章　遺跡の環境
第１節　自然環境……2　　第２節　基本層序……2
第Ⅲ章　遺構と遺物
１．竪穴住居址……3
Ｈ１号住居址　Ｈ２号住居址　Ｈ３号住居址
Ｈ４号住居址　Ｈ５号住居址　Ｈ６号住居址
Ｈ７号住居址　Ｈ８号住居址　Ｈ９号住居址
Ｈ 10 号住居址　Ｈ 11 号住居址　Ｈ 12 号住居址
Ｈ 13 号住居址　Ｈ 14 号住居址　Ｈ 15 号住居址
Ｈ 16 号住居址　Ｈ 17 号住居址　Ｈ 18 号住居址
２．溝跡……15
Ｍ１号溝跡　Ｍ２号溝跡　Ｍ３号溝跡
Ｍ４号溝跡　Ｍ５号溝跡
３．土坑……17
Ｄ１号土坑　Ｄ２号土坑　Ｄ３号土坑
Ｄ４号土坑　Ｄ５号土坑
４．掘立柱建物址……18
Ｆ１号掘立柱建物址　Ｆ２号掘立柱建物址　Ｆ３号掘立柱建物址
写真図版
抄　録

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第1節　立地と経過

岩村田遺跡群は南方を西流する湯川右岸の段丘上に位置し、南に向かって緩やかに傾斜する。標高は688m内外を測り、湯川との比高差は約21mである。周辺地域の地盤は北に聳える浅間山の降下火山灰と砂礫層で水はけも良く、比較的安定しており、古くから生活の場として広く利用されていた。遺跡群内ではこれまで14回の本調査が行われており、弥生時代から中世にいたる遺跡の密集地域として知られている。また、周辺の発掘調査では、貴重な発見がなされている。

昭和46年には同遺跡群内に存在する東一本柳古墳の調査が行われ、彫金を施した金銅製馬具などが多数出土し、調査区周辺の道路、店舗建設等に伴う西一本柳遺跡Ⅰ～ⅩⅣの調査では弥生時代から中世を中心とする遺構・遺物が多数発見されている。また、西に位置する北西の久保遺跡では弥生時代から平安時代の住居址に加え、弥生時代の木棺墓、方形周溝墓、古墳時代の円墳、中世の五輪等群など墓域を伺わせる遺構が発見され、古墳時代の円墳からは人物（武人・巫女等）・動物（馬・鹿・鳥等）・器材埴輪が出土した。

今回、株式会社　彩工舎による店舗兼貸店舗の新築工事が計画され、事前に遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。その結果、住居址等の遺構及び遺物が多数認められたため、開発主体者と文化財保護協議を重ね、遺構の破壊が予想される建築部の記録保存を目的とした発掘調査を行う運びとなった。

発掘調査位置図（1:100,000）

発掘調査位置図（1:1,000）

第2節　調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	木内　清
事務局	社会教育部長	柳沢　義春	
	社会教育次長	山崎　明敏	
	文化財課長	中山　悟（平成19年6月まで）	
		森角　吉晴（平成19年7月～）	
	文化財保護係長	高柳　正人	
	文化財調査係長	三石　宗一	
	文化財保護係	荻原　留美　高橋　浩一	
	文化財調査係	並木　節子（平成19年10月～）　林　幸彦　須藤　隆司	
		小林　眞寿　羽毛田卓也　冨沢　一明　神津　格	
		上原　学　出澤　力	
	調査主任	佐々木宗昭　森泉　かよ子	
	調査担当者	上原　学	
	調査員	浅沼勝男　安藤孝司　岩崎重子　江原富子　小幡弘子　土屋武士	
		中嶋フクジ　萩原宮子　比田井久美子　細萱ミスズ　武者幸彦	
		柳沢武　横尾敏夫　依田美穂　依田三男　渡邊久美子　渡辺長子	

第3節　遺跡の概要

遺　跡　名	岩村田遺跡群　西一本柳遺跡 XV（INP　XV）
所　在　地	佐久市岩村田字常木上 2329 番 1
調査期間	平成 19 年 6 月 8 日～平成 19 年 7 月 5 日（現場） 平成 19 年 6 月 12 日～平成 20 年 3 月 28 日（整理）
調査面積	320 ㎡
調査遺構	竪穴住居址 18 軒　掘立柱建物址 3 棟　土坑 5 基　溝跡 5 条　ピット
出土遺物	弥生式土器（壺・甕・鉢・高坏）土師器（坏・甕）須恵器（坏・甕）手捏ね土器 石製品（砥石、擦り・敲き・編物石、紡錘車）鉄製品（鏃・刀子等）羽口

第Ⅱ章　遺跡の環境

第1節　自然環境

佐久地域は、周辺を山地・台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には現在も活動を続け白煙を立ち上らせる浅間山、南には蓼科山が存在する。東には北関東山地の北端が延び、群馬県との境をなし、西には御牧原・八重原といった台地が広がっている。そして、佐久平を大きく二分するかのように一級河川である千曲川が南佐久方面の支流を集めながら水量を増し佐久市内に流れ込む。市内に入った千曲川は野沢付近まで北流した後、やや川筋を北西方向に変え、立科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの滑津川等と合流する。また、佐久地域は地質学的にも南北で大別でき、佐久平のほぼ中央である志賀川が滑津川と合流して千曲川に注ぐ東西線を境とし、河川の北側段丘上と南側沖積地とでは 10 ～ 30m の比高差を持つ断崖を認めることができる。北部地域は、北の浅間山麓末端部の台地で、浅間の噴火によって台地上に厚く軽石流が堆積している。この堆積層は、雨水の浸食によって深くえぐり取られ、浅間の麓から放射状に幾つもの浸食谷（田切り）を形成し、切り立った断崖によって台地を細長く分断している。

佐久市周辺航空写真

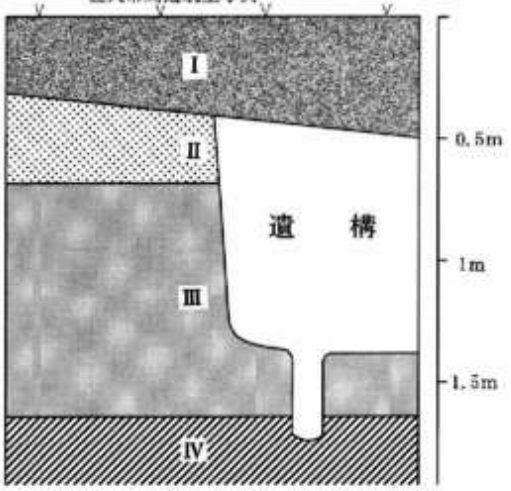
佐久市北部の遺跡は、主にこの南北方向に延びた田切り地形の台地上に形成されている。

これに対し、南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と支流の谷口扇状地となり、河川礫層と沖積粘土層が堆積した比較的安定した土地で、周辺地域は現在も広く水田として利用されている。遺跡は沖積地の微高地上及び、沖積地周辺に張り出す尾根上、尾根麓付近の緩斜面等に形成される場合が多い。

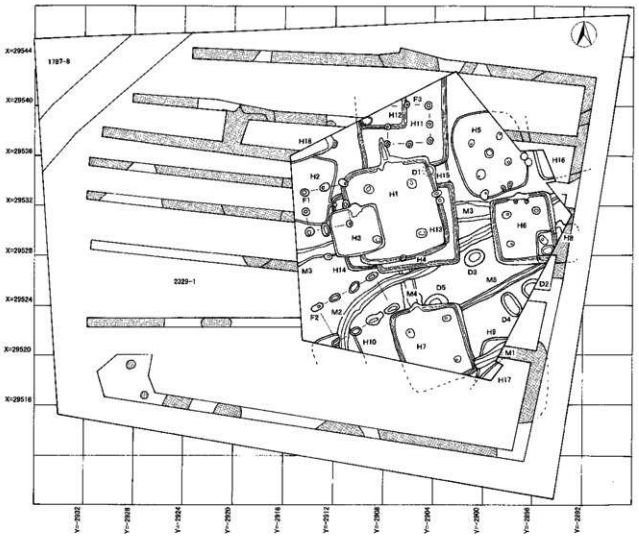
今回調査対象となった西一本柳遺跡ＸＶは、北部地域に位置し、浅間の麓から注ぐ湯川右岸の台地上に位置する。（参考　北佐久郡志　第一巻　自然編）

第2節　基本層序

Ⅰ層は耕作土（40 ～ 50 cm 厚）で北から南にかけてやや厚みを増す。Ⅱ層は耕作土と湯川層の中間層（15 ～ 20 cm 厚）でこの上面から遺構の確認が可能である。Ⅲ層は湯川層の砂層（80 ～ 100 cm）で大半の遺構はここまでの掘り込みとなる。Ⅳ層は追分第 1 灰流の堆積層である。住居址ピットの掘り込みが一部この層まで達していた。



基本層序模式図



調査区・試掘トレンチ配置図

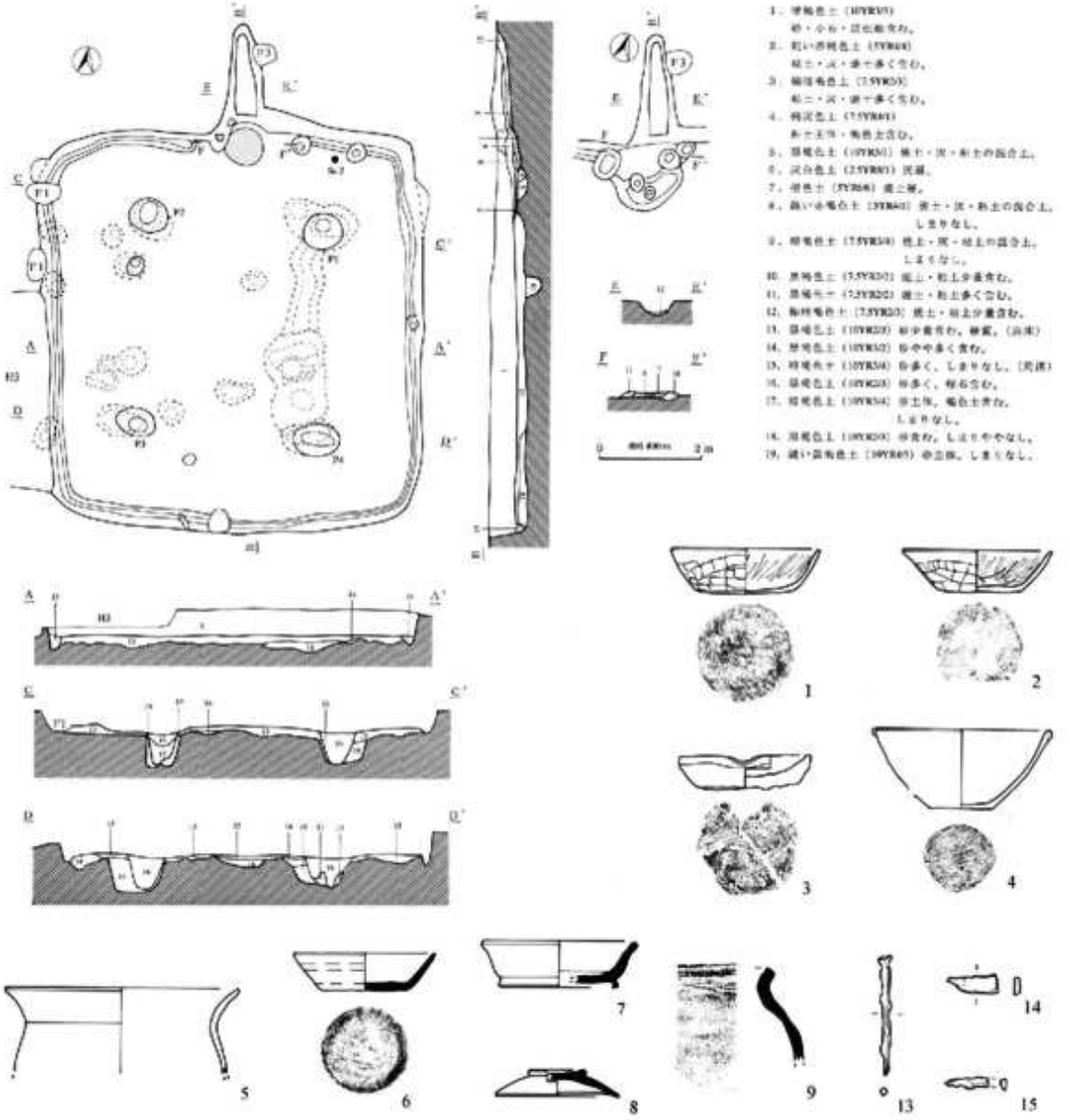
第Ⅲ章　遺構と遺物

1　竪穴住居址

H１号住居址

遺構は調査区中央に位置し、全体調査が可能であった。切り合い関係はＨ３、Ｄ１に切られ、Ｈ４・11・13・14・15を切る。規模は東西７m、南北7.5 m、確認面から床面までの深さは最大 48 cm を測る。平面形態は隅丸の方形である。床面は土間状に硬質で、北側の一部は僅かだが高くテラス状になり、中央付近はやや低くなる。壁際には周溝が巡り、床面上からピット７個を確認した。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築され、前面の床上に多量の粘土が散在し、本体の粘土・石等の構築材は取り除かれていた。焼土の堆積した火床及び壁から北に 1.6 m延びる長い煙道の掘り込みのみ残存していた。掘方は上部 10 cm 内外の厚みで貼り床され、貼り床直下は地山の砂主体である暗褐色土が埋め込まれていた。掘方の下から新たに主柱穴、住居内土坑と思われる配列の掘り込みが認められることから、ピット以外の居住空間を本住居に破壊された別遺構または本住居址拡張の可能性が考えられた。

遺物は土師器の坏・鉢・甕・手捏ね土器、須恵器の坏・蓋・甕、砥石・擦り石、羽口片、鉄製品が出土した。須恵器坏は回転糸切り後ヘラケズリと高台坏が存在する。須恵器蓋は小径でかえりが付き、つまみは皿状で大きい。土師器坏は平底で底部から体部にかけて広範囲にヘラケズリが施され、内面に暗文が認められる。土師器甕は器厚は薄く、口縁は丸みをもった「く」の字である。本住居址は坏・甕の形状から８世紀前半、奈良時代としたい。



H１号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	14.6	9.7	4.4	口縁横ナデ　底部から体部上部にかけてヘラケズリ　内面暗文	95	明い赤褐色
2	土師器	坏	14.7	8.2	4	口縁横ナデ　底部から体部上部にかけてヘラケズリ　内面暗文	70	明い橙色
3	土師器	片口鉢	13	9.6	3.4	手ごね　底部ヘラ切り	80	明い赤褐色土
4	土師器	鉢	[17]	6.2	7.8	内外面ミガキ	35	外面黄灰色
5	土師器	甕	[22.8]	－	－	口縁横ナデ　外面ヘラケズリ　内面ナデ	口縁破片	明赤褐色
6	須恵器	坏	13.9	8.4	3.6	内外面ナデ　底部回転糸切り後ヘラケズリ	80	黄い赤褐色
7	須恵器	高台付坏	[15.3]	[11.8]	4.7	体部ロクロナデ　底部ヘラケズリ後高台貼り付け	25	褐灰色
8	須恵器	甕	1つ2.5/1 5.8	[12.2]	2.6	内外面ロクロナデ　底部つまみ貼り付け　かえりあり	25	褐灰色
9	須恵器	甕	－	－	－	外面叩き痕　内面ナデ	口縁破片	灰黄褐色
10	須恵器	－	－	－	－	破片　肩部面取り	肩部	赤褐色　写真参照
11	須恵器	－	－	－	－	破片　表面やや磨元	破片	灰褐色　写真参照

H１号住居址遺物観察表

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
12	羽口	－	－	－	－	破片　表面やや黒元	破片	灰褐色　写真参照
13	鉄鏃	長さ 11.7 cm	幅 0.9 cm	厚さ 0.8 cm	重量 31.1g	断面四角	90	頭部一部破損
14	不明鉄製品	長さ 4.3 cm	幅 1.1 cm	厚さ 0.6 cm	重量 4.5g	断面長方形　芳部なし	－	刃部先端欠損
15	鉄製刀子？	長さ 4.9 cm	幅 1.7 cm	厚さ 0.6 cm	重量 20.99g	断面三角	先端破片？	下部欠損
16	砥石	長さ 12.81 cm	幅 4.18 ～ 4.97 cm	厚さ 2.30 ～ 3.00 cm	重量 425g	4 面研磨		写真参照
17	砥石	長さ 7.31 cm	幅 2.39 ～ 3.60 cm	厚さ 2.39 ～ 3.60 cm	重量 200g	4 面研磨		写真参照
18	擦り・敲き石	長さ 8.16 cm	幅 4.04 ～ 5.00 cm	厚さ 0.60 ～ 2.57 cm	重量 108g	一面擦り面　先端部敲き痕		写真参照

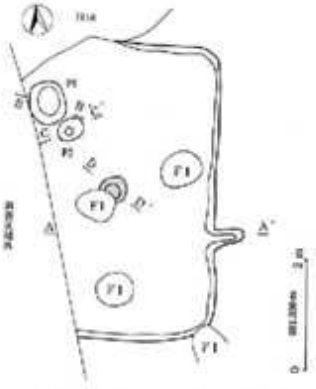
Ｈ１号住居址遺物観察表

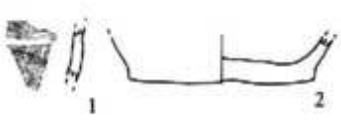
Ｈ２号住居址

遺構は調査区西に位置し、西側２分の１程度は調査区域外となる。切り合い関係はＨ18、Ｆ１に切られ、Ｈ14を切る。規模は南北5.1ｍ、東西は調査規模で最大3.4ｍ、確認面から床面までの深さは12 cm内外を測る。平面形態は隅丸の方形又は長方形と思われる。床面は硬質で土間状である。ピットは床面上で２個確認できたが主柱穴とは断言できない。カマドは東壁のやや南に位置し、火床及び煙道が確認できた。また床面の中央付近に円形の焼土の堆積が認められた。地焼炉と思われる。掘方は５～15 cmの厚みで砂混じりの暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は弥生から古墳時代の土器片・鉄製品・擦り石が出土した。

本住居址はやや厚めの土師器甕片、６～７世紀代と思われる土師器坏片が認められることから古墳時代としたい。





Ｈ２号住居址遺構・遺物実測図

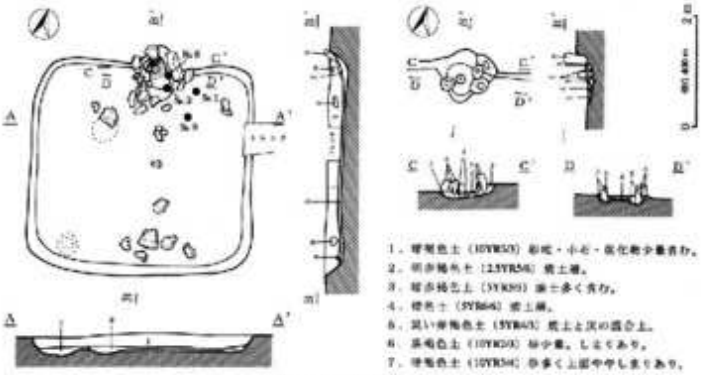
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	－	－	－	口縁横ナデ　胴部外面ヘラケズリ	口縁破片	明赤褐色
2	土師器	甕	－	[15.6]	－	内外面ナデ	底部破片	橙色
3	鉄鏃	長さ 9.2 cm	幅 1.4 cm	厚さ 0.4 cm	重量 9.2g	断面四角　頭部欠損	－	
4	擦り石	長さ 8.59 cm	幅 3.26 ～ 4.91 cm	厚さ 2.45 ～ 2.51 cm	重量 220g	2 面擦り面	片側欠損	写真参照

Ｈ２号住居址遺物観察表

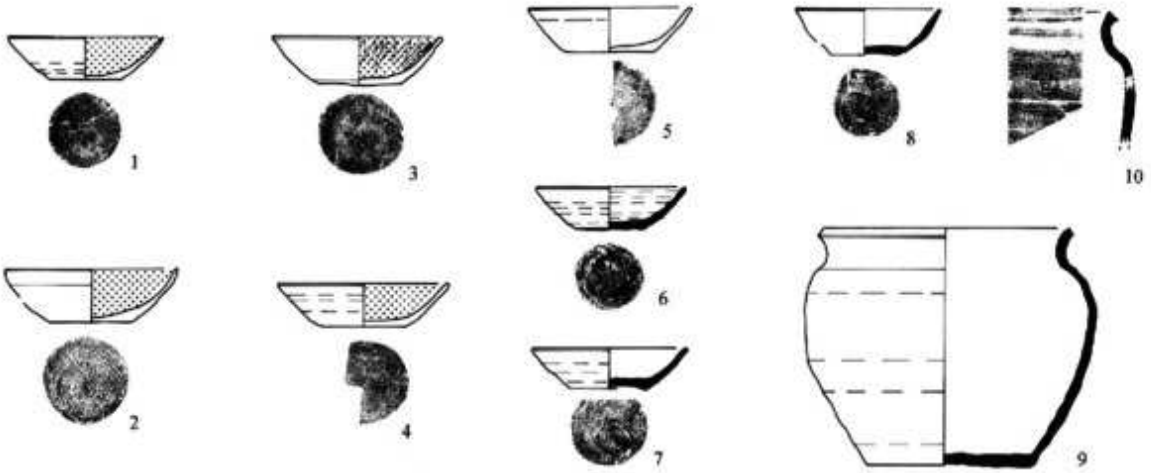
Ｈ３号住居址

遺構は調査区中央のやや西に位置する。切り合い関係はＨ１・４、Ｍ３を切り、Ｆ１に切られる。規模は南北3.5ｍ、東西3.8ｍ、確認面から床面までの深さは最大25 cmを測る。平面形態は隅丸の方形である。床面はやや硬い状態で、カマドの石材及び土器の散布が認められた。周溝、ピットは確認できなかった。カマドは北壁の中央に構築され、火床及び袖石が残存していた。火床には厚さ６ cmの厚みで焼土が堆積し、中央やや西に支脚石が埋め込まれていた。掘方は薄く黒褐色土、暗褐色土が埋め込まれ、硬質の床下は切り合い関係にあるＨ１の覆土となる。

遺物は須恵器の坏・甕、土師器の坏・甕、灰釉陶器の壺片が出土した。須恵器坏は底部回転糸切り後未調整、土師器坏はやや大型で開き、底部は全面及び一部ヘラケズリ、未調整が存在する。土師器甕は器厚は薄く口縁やや「コ」の字状である。本住居址は土師器甕・坏、須恵器坏の形状、灰釉陶器の存在から９世紀後半、平安時代としたい。



Ｈ３号住居址実測図

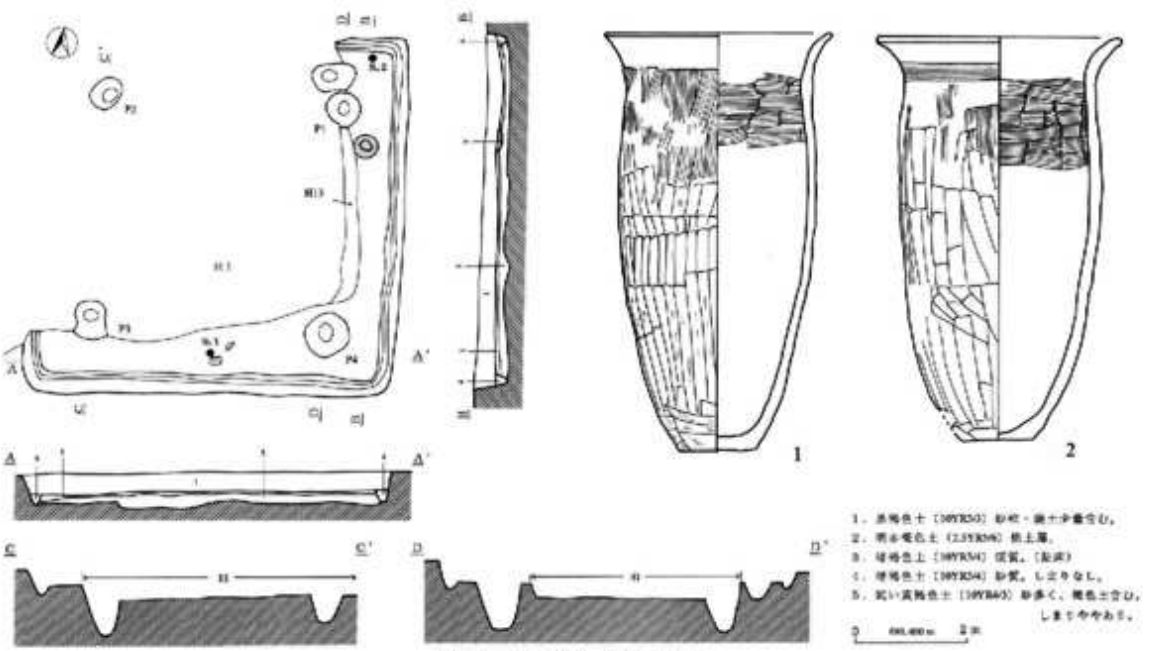


H３号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	14.2	6.6	3.8	ロクロナデ　内面黒色処理　底部ヘラケズリ	70	外面明赤褐色　内面黒色
2	土師器	坏	[15.7]	7.5	4.8	ロクロナデ　内面黒色処理　底部回転糸切り	70	外面鈍い橙色　内面黒色
3	土師器	坏	15.4	7.8	4.4	ロクロナデ　内面黒色処理　放射状太い暗文風ナデ　底部ヘラケズリ	90	外面浅黄色　内面黒色
4	土師器	坏	[15.4]	[7.2]	4	ロクロナデ　内面黒色処理　底部ヘラケズリ	30	外面橙色　内面黒色
5	土師器	坏	[15.3]	[7.6]	4	ロクロナデ　内面ミガキ　底部回転糸切り、周辺部ヘラケズリ	40	鈍い赤褐色
6	須恵器	坏	12.6	6	3.8	内外面ロクロナデ　底部回転糸切り	98	明黄灰色　一部橙色
7	須恵器	坏	[14.1]	6.7	3.5	内外面ロクロナデ　底部回転糸切り	50	灰白色
8	須恵器	坏	[13.1]	6	4.2	内外面ロクロナデ　火だすき　底部回転糸切り	50	鈍い黄橙色
9	須恵器	甕	22.2	15	21.5	内外面ロクロナデ　底部中央ややくぼみ　胎土粗い	75	灰褐色
10	須恵器	甕	－	－	－	内外面ロクロナデ	口縁～胴部破片	灰黄色

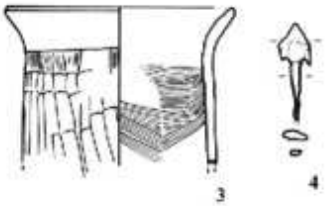
H３号住居址遺物観察表

H４号住居址



H４号住居址遺構・遺物実測図

遺構は調査区中央に位置し、H１・３・13に切られ、H 14・15、M２・３・４を切る。規模は南北6.1 m、東西6.2 m、確認面から床面までの深さは30 cm内外を測る。床面は硬質で、壁際に幅13 cm内外の周溝が存在し、東壁北寄りの床面上に円形の焼土の堆積が認められた。性格は不明である。また、南壁際中央付近の床面上には土師器の長胴甕が横たわっていた。ピットは床面上及び切り合い関係にあるH１の掘方下から５個のピットが認められた。位置的にP１～P４が主柱穴と思われる。カマドは確認できなかった。北壁又は西壁に存在すると考えられるが、これまでのカマドを伴う住居址調査例から北壁に存在していた可能性が高い。掘方は約４ cm厚の貼り床直下に、16 cm厚の鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。



H４号住居址遺物実測図

遺物は土師器の坏・長胴甕・甑、須恵器の甕片、鉄鏃が出土した。土師器坏は丸底で、口縁有段と無段が存在する。いずれも小破片である。長胴甕は器厚はやや厚く、胴部は長く直線的である。土師器の甑は底部単口の破片、須恵器甕は小破片である。本住居址は６～７世紀、古墳時代後期としたい。

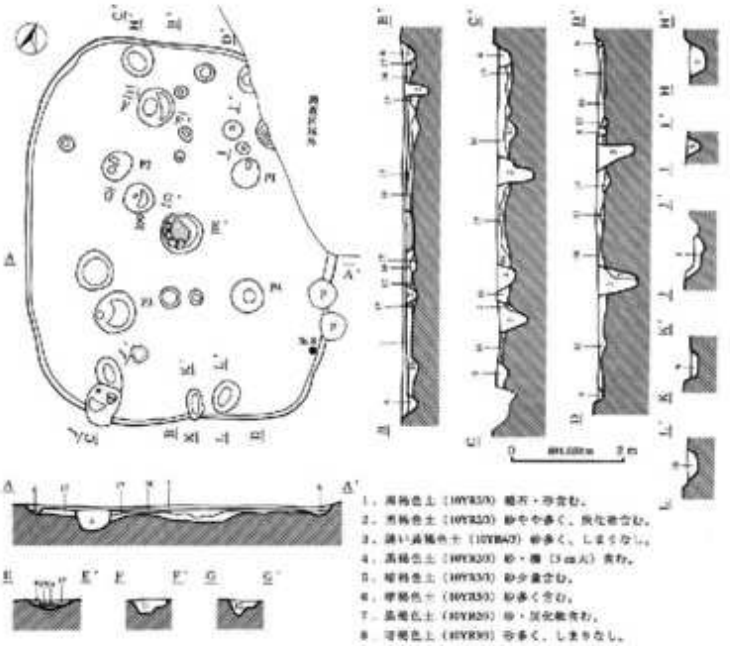
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	甕	20.4	7	37.8	口縁横ナデ　外面タテ状ヘラによるナデ後ヘラナデ・ケズリ　内面タテ状ヘラによるナデ	90	橙色
2	土師器	甕	22.2	6.4	36.4	口縁横ナデ　外面タテ状ヘラによるナデ後ヘラナデ・ケズリ　内面タテ状ヘラによるナデ	75	鈍い橙色
3	土師器	甕	[21.2]	－	－	口縁横ナデ　外面タテ状ヘラによるナデ後ヘラナデ・ケズリ　内面タテ状ヘラによるナデ	口縁～頸部破片	橙色
4	鉄鏃	長さ8.8 cm	幅 0.4～2.2 cm	厚さ 0.5～0.8 cm	重量 15.50g	茎部欠損	80	

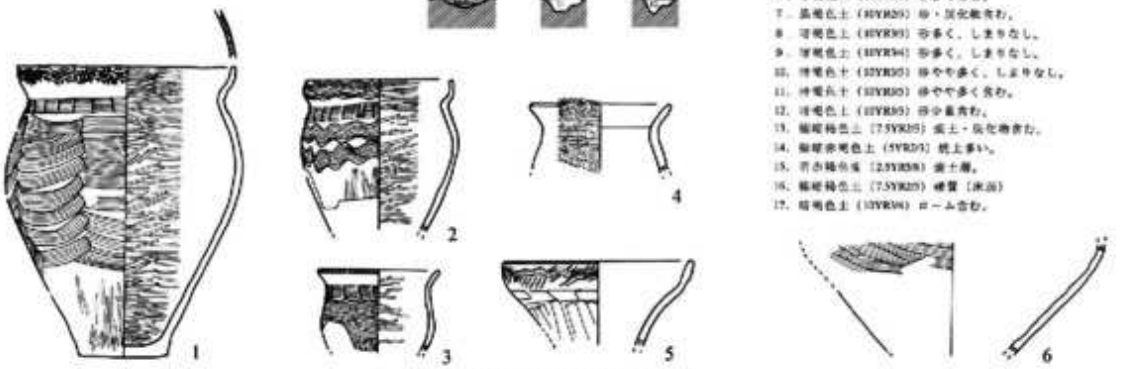
H４号住居址遺物観察表

H５号住居址

遺構は調査区北東に位置し北東コーナー付近は調査区域外となる。切り合い関係は一部のピットと新旧関係がある。規模は南北6.5 m、東西5.2 m、確認面から床面までの深さは10 cmを測る。平面形態は楕円に近い隅丸方形である。床面は硬質で多くのピットに切られている。主柱穴はP１～P４と思われ、床面中央に円形の炉が設置されている。主柱穴以外のピットについては遺構の深さが浅かったことから本住居址に付属するか断定できなかった。床下の掘方にはロームを含む暗褐色土が埋め込まれていた。

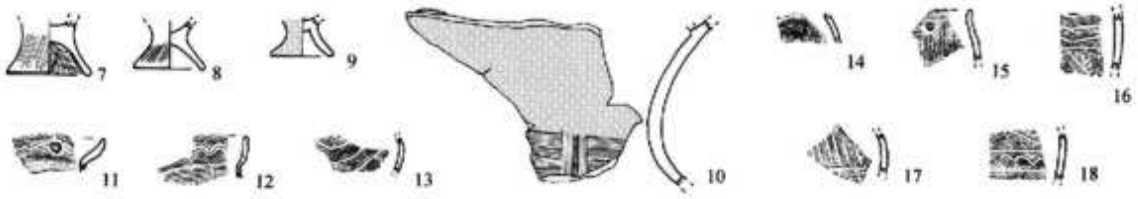
遺物は弥生式土器の壺・甕・台付甕台部、磨製石斧・凹石が出土した。





H５号住居址遺構・遺物実測図

土器表面には斜線文・波状文・山形文・刺突文・貼付文・連弧文・羽状文、縄文、赤色塗彩等の調整が認められる。本住居址は、住居址の形態が楕円状であり、土器表面に縄目を施す等の特徴から弥生時代中期後半栗林期としたい。



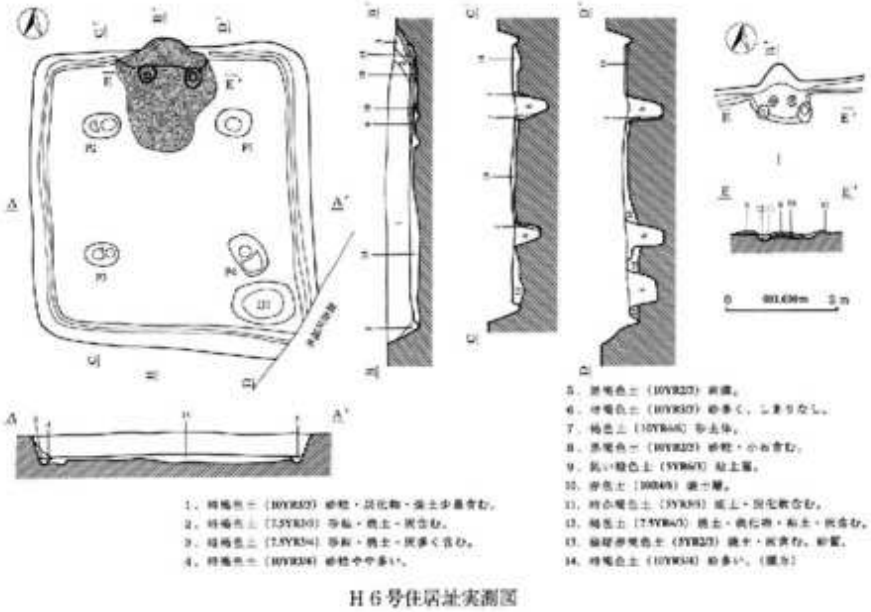
H５号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	壺	19.6	7.9	26.2	口縁・口縁部縄文　口縁部山形沈線文　頸部櫛描羽状文　外面上半縦位櫛描文　外面下部縦ミガキ　内面横ミガキ	70	淡い黄橙色
2	弥生式土器	壺	13.2	－	－	口縁・外面上半櫛描波状文　頸部櫛描羽状文　外面下部縦ミガキ　内面横ミガキ	20	外面灰褐色
3	弥生式土器	壺	[11]	－	－	口縁部縄文　口縁部ナデ　外面櫛描波状文　頸部櫛描羽状文　内面ミガキ	口縁～頸部破片	外面灰白色・灰褐色
4	弥生式土器	壺	112.3	－	－	口縁部縄文　口縁部端部櫛描波状文　頸部櫛描羽状文　内面ミガキ	口縁破片	淡い赤褐色
5	弥生式土器	壺	17.2	－	－	口頸・口縁部縄文　口縁波状沈線文　内面横ミガキ	口縁 80	外面淡い黄橙色　内面灰黄褐色
6	弥生式土器	壺	－	－	－	頸部斜縄文　頸部下部縦ミガキ　内面クシ状ヘラによるナデ	頸下部破片	淡い橙色
7	弥生式土器	高坏 or 台付鉢	－	7.8	－	外面縦ミガキ　内面クシ状ヘラによるナデ	台部 100	褐灰色
8	弥生式土器	高坏 or 台付鉢	－	6.5	－	外面赤色塗彩？ミガキ　内面ヘラナデ	台部 100	淡い赤褐色
9	弥生式土器	高坏 or 台付鉢	－	5.9	－	外面赤色塗彩　内面ミガキ	台部 100	外面赤色　内面淡い黄橙色
10	弥生式土器	壺	－	－	－	口縁外面赤色塗彩　内面突帯　頸部櫛描文	頸部周辺破片	外面赤色
11	弥生式土器	壺	－	－	－	口頸部縄文　口縁円形粘り付け文　内面横ミガキ	口縁破片	淡い褐色
12	弥生式土器	壺	－	－	－	口頸・口縁部縄文　頸部櫛描波状文　内面横ミガキ	口縁破片	灰黄褐色
13	弥生式土器	壺 or 鉢	－	－	－	外面沈線　縄文	頸部破片	灰黄褐色
14	弥生式土器	壺	－	－	－	赤色塗彩	頸部破片	赤色
15	弥生式土器	壺	－	－	－	頸部櫛描羽状文　外面コの字爪痕文　円形粘り付け文　内面ミガキ	頸部破片	淡黄褐色
16	弥生式土器	壺	－	－	－	外面縄文　刺突文　連弧文　横走沈線　山形沈線？　内面ミガキ	頸部破片	褐色
17	弥生式土器	壺	－	－	－	外面縄文　複合鋸歯文　内面ミガキ	頸部破片	淡い褐色
18	弥生式土器	壺	－	－	－	外面赤色塗彩　縄文　横走・斜沈沈線・山形沈線文　内面ミガキ	頸部破片	淡い赤色
19	凹石	長さ 8.8 cm	幅 7.9 cm	厚さ 4.8 cm	重量 430 g	2 面凹あり　側面打撃痕	片側欠損	写真参照
20	凹石	長さ 11.5 cm	幅 9.9 cm	厚さ 6.2 cm	重量 800 g	2 面凹あり　側面打撃痕	片側欠損	写真参照
21	敲磨石斧	長さ 6.8 cm	幅 7.2 cm	厚さ 4.5 cm	重量 430 g	一部に人為的剥離痕	刃端部欠損	写真参照

H５号住居址遺物観察表

H６号住居址

遺構は調査区東に位置する。切り合い関係はH８、M２・３・５を切る。規模は南北５m、東西 4.6 m、確認面から床面までの深さは 40 cm 内外を測る。平面形態は隅丸の方形である。床面は土間状に硬く、壁際には幅 15 cm 内外の周溝が存在する。ピットは床面上から４個の主柱穴、南東コーナーに南北径 80 cm、東西径 110 cm、深さ 50 cm の土坑が認められた。カマドは北壁中央に構築されているが、完全に破



H６号住居址実測図

壊され、周辺に多くの粘土が堆積していた。粘土下からは円形の火床と思われる焼土範囲が確認できた。掘方は5 cm内外と比較的薄く硬質の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は須恵器の坏・高台付坏、蓋、土師器の甕、擦り石、羽口片が出土した。須恵器坏は底部ヘラケズリの破片、土師器甕は薄く、口縁は「く」の字状で、破片のみ出土している。羽口は先端部破片である。本住居址は土師器甕口縁部の形状、底部ヘラケズリの須恵器坏から8世紀前半、奈良時代としたい。

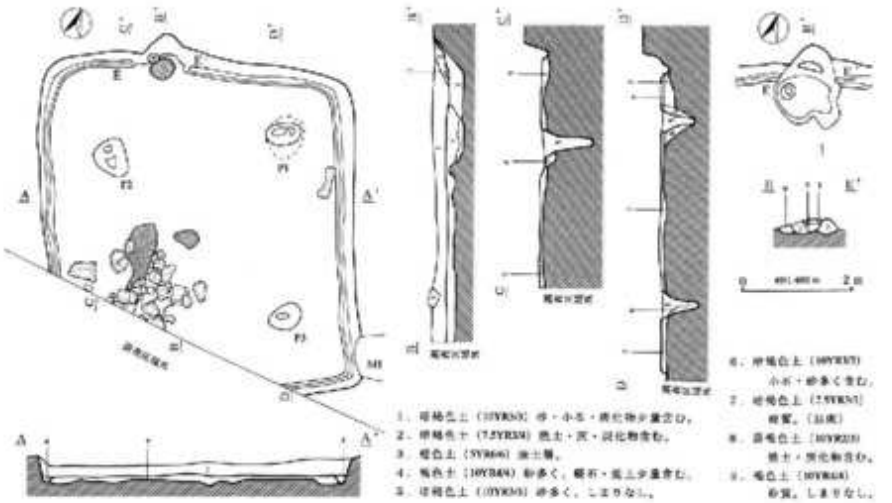
H6号住居址遺物実測図

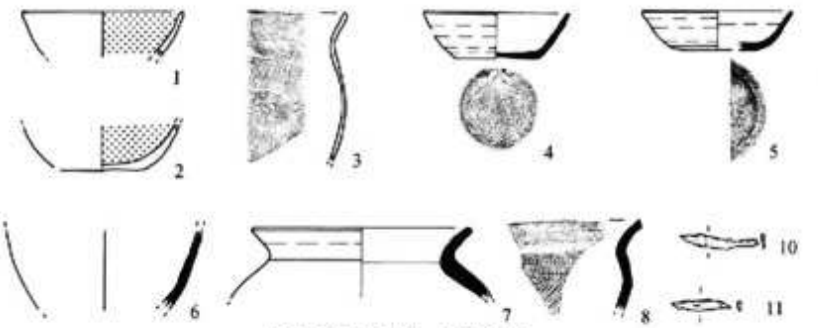
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	坏	14.1	7.8	4.5	内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　火だすき	70	灰黄褐色
2	須恵器	高台付坏	－	9.7	－	ロクロナデ　底部回転糸切り後高台張り付け	底部60	灰褐色
3	須恵器	蓋	－	－	－	ロクロナデ　宝珠つまみ径2.1 cm　天井部ヘラケズリ	つまみ頂部破片	暗灰黄色
4	須恵器	不明	－	6	－	ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ	底部破片	褐灰色
5	土師器	甕	－	－	－	口縁内外面横ナデ　外面横・斜めヘラケズリ　内面横ヘラナデ	口縁～頸部破片	灰赤色
6	羽口	－	－	－	－	外面煤元　先端部熱による変形	先端部破片	灰黒褐色　内面赤褐色　写真掲載
7	棒状鉄製品	長さ5.7 cm	幅0.8 cm	厚さ0.6 cm	重量7.8g	断面四角　釘又は鏃か？	－	青銅欠損
8	擦り石	長さ10.2 cm	幅9.8 cm	厚さ1.9 cm	重量200g	四面擦り痕	－	写真掲載
9	擦り石	長さ9.8 cm	幅4.1 cm	厚さ3.0 cm	重量190g	一面擦り痕	－	写真掲載

H6号住居址遺物観察表

H7号住居址

遺構は調査区南に位置し、南西コーナー付近は調査区域外となる。切り合い関係はM1・4・5、D5を切る。規模は南北5.6 m、東西5.4 m、確認面から床面までの深さは30 cmを測る。平面形態はやや南北に長い隅丸長方形である。床面は硬質の薄い貼り床状で、壁際に幅13 cm内外の周溝が存在する。ピットは3個の主柱穴が認められ、いずれも深さは45 cm以上を測る。カマドは北壁のやや西に位置し、破壊された状態で、火床と思われる焼土の堆積及び壁外に張り出す煙道の立ち上がりのみ確認できた。南西コーナー寄りの床面上には多量の石材が散在し、一部に粘土、焼土が含まれていることから、カマドの廃材と考えられる。掘方は貼り床である硬質な暗褐色土の単層であった。





H7号住居址遺構・遺物実測図

遺物は須恵器の坏・甕・壺、土師器の坏・甕、羽口片、砥石、鉄製品が出土した。須恵器坏は底部糸切り後未調整、土師器坏は全面ヘラケズリ、内面黒色処理を施す。羽口は末端部破片である。本住居址は奈良・

平安時代、８世紀後半としたい。

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	[15]	－	－	ロクロナデ　内面黒色処理　No.2と同一個体か？	口縁破片	外面明赤褐色　内面黒色
2	土師器	坏	－	7.8	－	ロクロナデ　内面黒色処理　底部ヘラケズリ　No.1と同一個体か？	底部～体部破片	外面明い橙色　内面黒色
3	土師器	甕	－	－	－	口縁内外面横ナデ　外面横・斜めヘラケズリ　内面横ヘラナデ	口縁～頸部破片	明赤褐色
4	須恵器	坏	[13.4]	7.3	4.2	ロクロナデ　底部回転糸切り　火だすき	50	黄灰色
5	須恵器	坏	[14]	[6.5]	3.6	ロクロナデ　底部回転糸切り	底部～口縁破片	灰色
6	須恵器	甕	－	－	－	ロクロナデ	胴部破片	黒色
7	須恵器	甕	[20.2]	－	－	ロクロナデ	口縁破片	黄灰色
8	須恵器	甕	－	－	－	ロクロナデ　胴部外面格子叩き	口縁破片	灰色
9	羽口	－	－	－	－	外面溶元一部	先端部破片	暗灰褐色 内面橙色 写真参照
10	鉄製刀子	長さ 6.7 cm	幅 1.1cm	厚さ 0.5cm	重量 9.13g		－	基部欠損
11	鉄製刀子	長さ 5.1 cm	幅 0.9cm	厚さ 0.5cm	重量 3.82g		－	基部欠損
12	砥石	長さ 13.4 cm	幅 4.4～7.9cm	厚さ 1.7～4.0cm	重量 300g	砥面 4 面　1 面条痕あり	－	片側欠損　写真参照
13	敲き石	長さ 17.7 cm	幅 4.1cm	厚さ 3.1cm	重量 800g	先端　側面等に敲き痕あり	－	写真参照

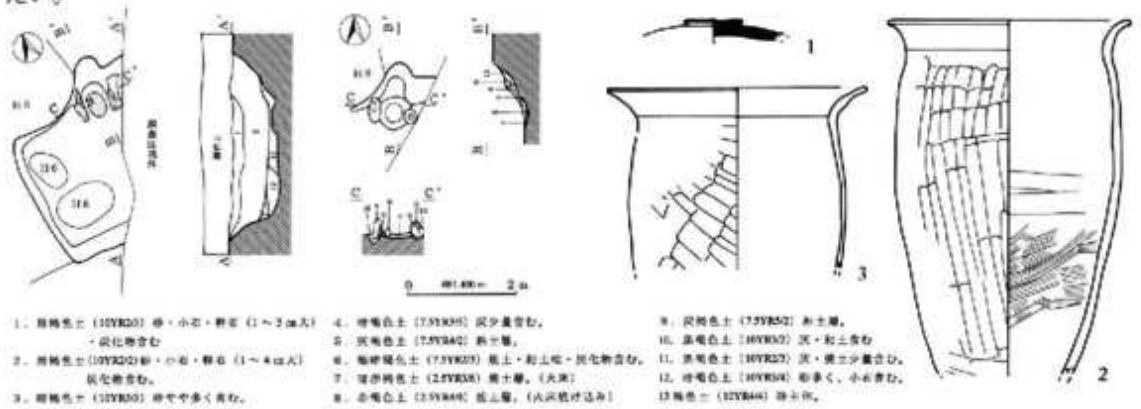
Ｈ７号住居址遺物観察表

Ｈ８号住居址

遺構は調査区東に位置し、遺構の東側３分の２は調査区域外となる。切り合い関係はＭ５を切り、Ｈ６に切られる。規模は南北 2.1 m、東西は調査規模で 1.7 m、確認面から床面までの深さは 70 cm を測る。床面は土間状に硬質である。周溝及びピットは認められなかった。平面形態は残存状況から小型で東西方向にやや長い長方形と考えられる。カマドは北壁に位置し、焼土の堆積した火床及び一部石材を利用した両袖、北壁外に立ち上がる煙道の一部が残存していた。火床部分からは土師器長胴甕の破片が多数出土した。掘方はカマド周辺部以外は薄く、硬質の貼り床と思われる褐色土の単層であった。

遺物は土師器の甕、須恵器の蓋が出土している。土師器甕はやや薄く、口縁「く」の字、須恵器蓋はつまみ径が大きく皿状の破損品である。

本住居址は土器の形状及び８世紀前半と考えられるＨ６に切られることから、７世紀末～８世紀前葉としたい。



Ｈ８号住居址遺構・遺物実測図

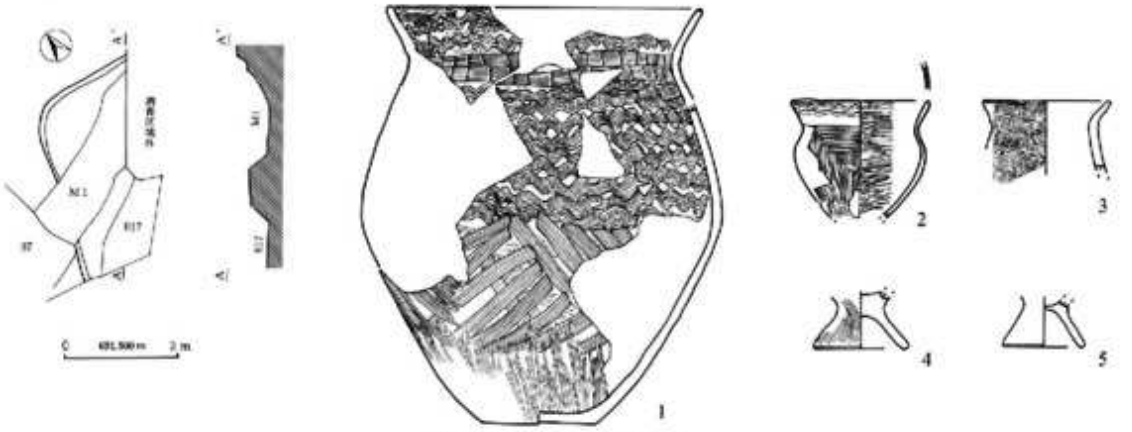
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	蓋	つまみ径 5.5	－	－	ロクロナデ　回転つまみ　天井部回転ヘラケズリ	つまみ周辺破片	褐灰色
2	土師器	甕	[22.7]	－	－	口縁横ナデ　外面縦ヘラケズリ　内面クシ状ヘラによるナデ	30	橙色
3	土師器	甕	[24.0]	－	－	口縁横ナデ　外面斜めヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁～頸部破片	暗赤褐色

Ｈ８号住居址遺物観察表

Ｈ９号住居址

遺構は調査区南の東端に位置し、北西コーナー付近以外は調査区域外となる。切り合い関係はＭ１に切られ、Ｈ 17 と切り合い関係にある。規模は調査規模の最大で南北 3.1 m、東西 1.4 m、確認面から床面までの深さは 10 cm を測るが試掘調査の結果から 6.5 × 5 m程度の住居址と思われる。平面形態は隅丸の長方形と考えられる。ピット、炉等の施設は認められなかった。

遺物は弥生式土器が出土した。表面に縄目・波状文・簾状文・刺突文・山形文・コの字重ね文など工具による文様が多く、赤色塗彩されたものは少ない。本住居址は弥生時代中期後半栗林期としたい。



H９号住居址遺構・遺物実測図

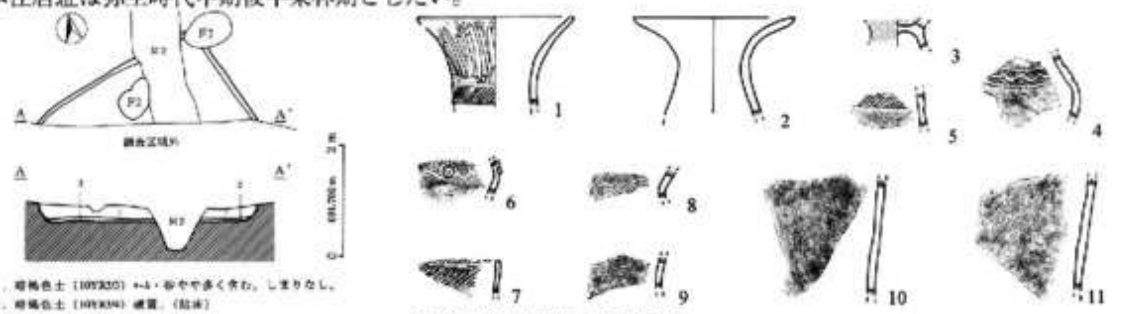
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	壺	[28.6]	[10]	[37.2]	口縁部刻み　外面櫛描波状文 櫛描斜線文　頸ミガキ　頸部櫛描波状文	35	淡黄橙色
2	弥生式土器	壺	[12.7]	－	－	口縁部縄文　口縁外面山形沈線文　外面直ぬきの字文　内面横ミガキ	20	鈍い橙色
3	弥生式土器	壺	12.3	－	－	外面櫛描波状文　内面横ミガキ	口縁～胴部破片	黒褐色
4	弥生式土器	台付壺	－	8.7	－	外面縦ハケナデ　内面横ハケナデ	台部100	鈍い橙色
5	弥生式土器	台付壺	－	7.6	－	外面縦ミガキ　内面横ハケナデ	台部100	鈍い黄橙色

H９号住居址遺物観察表

H 10 号住居址

遺構は調査区南の西端に位置し、北東コーナー付近以外は調査区域外となる。切り合い関係はＭ２、Ｆ２に切られる。規模は調査規模の最大で南北 1.8 m、東西 3.2 m、確認面から床面までの深さは 10cm を測る。平面形態は方形又は長方形と思われる。床面は硬く、本住居址に伴うと考えられるピット及び炉などの施設は認められなかった。掘方は薄く硬質の貼り床である暗褐色土の単層であった。

遺物は弥生式土器の薄く赤色塗彩された壺片及び中期後半と思われる表面摩耗の壺片、石製品が出土した。本住居址は弥生時代中期後半栗林期としたい。

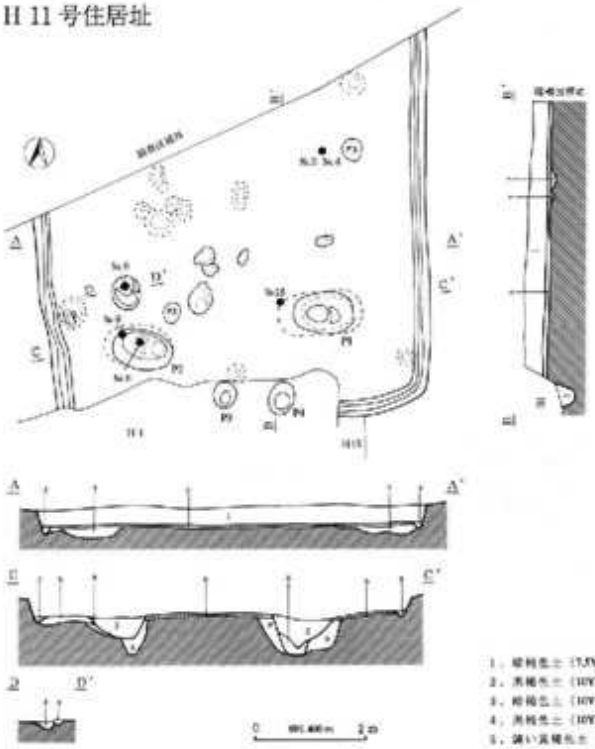


H 10 号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	壺	[14.2]	－	－	口縁外面詰めハケナデ後縦ミガキ　胴部横走沈線に縄文　内面ミガキ	口縁 70	淡黄橙色
2	弥生式土器	壺	[14.8]	－	－	頸部摩耗　頸部櫛描波状文？　内面ナデ	口縁～胴部破片	淡黄橙色
3	弥生式土器	高坏	－	－	－	脚部外面、内底赤色塗彩　脚部内面ヘラナデ	脚部破片	赤色
4	弥生式土器	壺	－	－	－	外面横走沈線間に縄文　波状沈線文　内面黒色	頸部～胴部破片	鈍い黄橙色　内面黒色
5	弥生式土器	壺	－	－	－	外面縄文	頸部破片	鈍い橙色
6	弥生式土器	壺	－	－	－	口唇・口縁外面縄文　円形貼り付け文　山形沈線文	口縁破片	橙色
7	弥生式土器	壺	－	－	－	口唇・口縁外面縄文	口縁破片	鈍い黄橙色
8	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描波状文	頸部破片	黒褐色
9	弥生式土器	壺	－	－	－	赤色塗彩　墨痕らしき線	破片	片面赤色
10	弥生式土器	壺	－	－	－	外面ミガキ	破片	橙色
11	弥生式土器	壺	－	－	－	外面ミガキ	破片	橙色
12	磨製片刃石斧	長さ 3.9cm	幅 3.9cm	厚さ 0.8cm	重量 21g		－	基部欠損 写真参照

H 10 号住居址遺物観察表

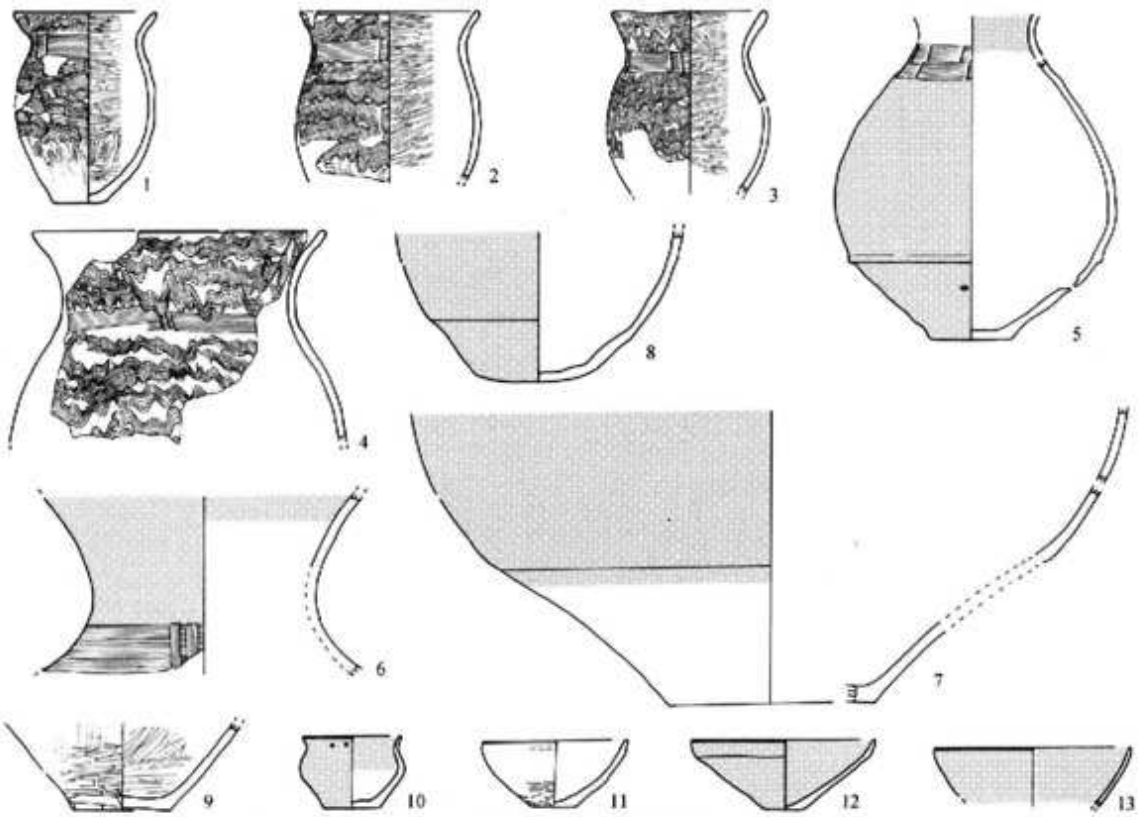
H 11 号住居址



遺構は調査区北に位置し、北側の一部は調査区域外となる。切り合い関係はＨ１・12、Ｆ３に切られ、Ｈ 15 を切る。規模は東西 6.8 m、南北は調査規模の最大で 6.6 m、確認面から床面までの深さは 35 cm 内外を測る。平面形態は南北方向に長い隅丸の長方形と思われる。床面は全体的に硬質で、壁際に幅 15 cm 内外の周溝が存在する。床面上でピットは４個確認できＰ１・２が本住居址南側の主柱穴、Ｐ３・４は入口に関すると思われる。主体の炉は調査区域外に存在すると思われるが、Ｐ２の北に小型の炉が存在した。また、Ｐ２内には土器棺と思われる壺が埋め込まれていた。住居廃絶後に埋葬された可能性が伺える。掘方は全体に３ cm 程度の貼り床が施され、住居址東西壁際１m程度の範囲のみ深く掘り込まれていた。

遺物は弥生式土器の甕・壺・鉢・高坏・擦り石が出土した。土器は工具による波状文・櫛状文、表面赤色塗彩されたものが多い。本住居址は出土遺物の特徴から弥生時代後期箱清水期としたい。

1．暗褐色土（7.5YR3/3）粒石・炭化物・黒褐色ユニット含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）砂・粘土含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）砂やや多く、しまりなし。
4．黒褐色土（10YR2/3）炭化物・砂少量含む。
5．濃い黒褐色土（10YR3/3）砂主体・褐色土含む。
6．暗褐色土（10YR3/4）硬質。（粘土）
7．黒褐色土（10YR2/3）砂・小石少量含む。
8．濃い黒褐色土（10YR3/3）砂多く含む。
9．褐色土（10YR4/4）砂・小石多く含む。



H 11 号住居址遺構・遺物実測図

H 11 号住居址遺物実測図

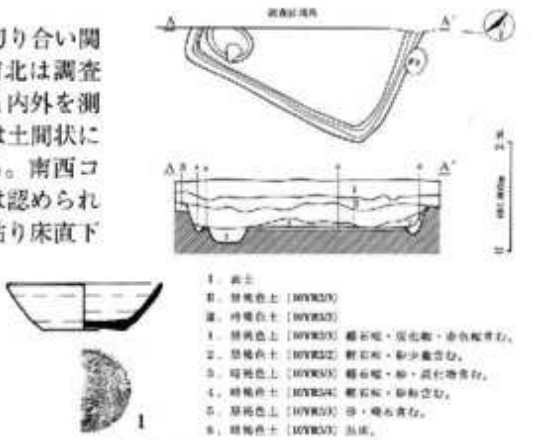
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	甕	13	4.9	17.2	外面櫛描波状文　頸部櫛描平行文　頸下半縦ミガキ　内面ミガキ	80	淡い赤褐色
2	弥生式土器	甕	16.4	－	－	外面櫛描波状文　頸部櫛描平行文　内面斜めミガキ	30	淡い赤褐色
3	弥生式土器	甕	14.2	－	－	外面櫛描波状文　頸部櫛描平行文　内面斜めミガキ	30	淡い赤褐色
4	弥生式土器	甕	[26.6]	－	－	外面櫛描波状文　頸部櫛描平行文　口縁内面ヘラナデ　頸部内面ハケナデ	口縁～胴部破片	淡い橙色
5	弥生式土器	壺	－	7.5	－	外面赤色塗彩（櫛描？）ミガキ　頸部櫛描直線文　口縁内面赤色塗彩	70	外面橙色・淡い赤色
6	弥生式土器	壺	－	－	－	外面赤色塗彩　頸部櫛描文	口縁～頸部破片	外面赤色
7	弥生式土器	壺	－	[18.6]	－	外面赤色塗彩　外面下部縦ミガキ　内面ハケ目	底部～胴部破片	外面赤色
8	弥生式土器	壺	－	11	－	外面赤色塗彩　胴下半部横ハケナデ　内面ナデ・ミガキ	底部～頸部下半	外面赤色
9	弥生式土器	壺 or 甕	－	8.8	－	外面底部付近横ミガキ　上部縦ミガキ　内面斜めミガキ	底部～胴部	淡褐色
10	弥生式土器	甕	9	5.1	6.5	外面　内面上部赤色塗彩　口縁穿孔 2	50	外面、内面上部赤色
11	弥生式土器	鉢	13.2	3.9	6.1	外面横ミガキ　底部及び胴部ヘラケズリ　内面粗雑	70	淡黄褐色
12	弥生式土器	鉢	16.9	3.6	6.4	内外面赤色塗彩　ミガキ	85	赤色
13	弥生式土器	鉢	18	－	－	内外面赤色塗彩　ミガキ	50	赤色
14	弥生式土器	壺	[10.8]	－	－	竹口　外面縦ミガキ　内面横ミガキ	口縁～胴部破片	外面褐色　内面橙色
15	弥生式土器	高坏	19.1	－	－	内外面磨耗　内外面赤色塗彩痕跡？	坏部 80	外面赤褐色　内面暗赤褐色
16	弥生式土器	高坏	[23]	－	－	内外面淡い赤色塗彩　ミガキ	坏部 30	赤色
17	弥生式土器	高坏	－	22.7	－	外面赤色塗彩　縦ミガキ　内面ハケナデ	脚部 50	外面赤色　内面橙色
18	砥石	長さ 5.3cm	幅 4.1cm	厚さ 3.6cm	重量 120g		－	写真参照

H 11 号住居址遺物観察表

H 12 号住居址

遺構は調査区北に位置し、北側は調査区域外となる。切り合い関係はＦ３に切られ、Ｈ 11 を切る。規模は東西 3.7 m、南北は調査規模の最大で 2.2 m、確認面から床面までの深さは 30 cm 内外を測る。平面形態は隅丸の方形又は長方形と思われる。床面は土間状に硬く貼り床され、壁際に幅 12 cm 内外の周溝が存在する。南西コーナーに土坑が存在した以外、ピット、カマド等の施設は認められなかった。掘方は 3 cm 内外の厚みの貼り床が存在し、貼り床直下は切り合い関係にあるＨ 11 の床面となる。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕、弥生式土器、砥石が出土した。小破片が大半である。須恵器坏は回転糸切り後未調整、土師器坏は口縁部で内面黒色処理を施す。甕は薄手と厚手が存在する。本住居址は土器の特徴から平安時代としたい。本住居址は弥生時代の住居を破壊して掘り込まれていることから弥生式土器は混入と思われる。



H 12 号住居址遺構・遺物実測図

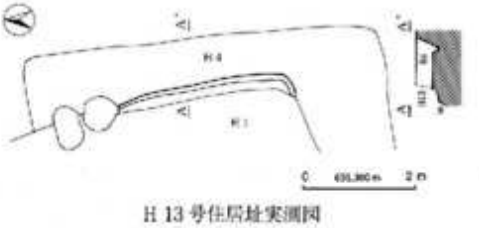
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	坏	[14]	[7.4]	4.1	内外面ロクロナデ　底部回転糸切り	底部～口縁破片	灰色
2	砥石	長さ 11.2 cm	幅 3.6～6.5 cm	厚さ 2.6～3.1 cm	重量 260g	4 面砥面		写真参照　片端欠損

H 12 号住居址遺物観察表

H 13 号住居址

遺構は調査区中央付近に存在するが大半をＨ１に破壊され、残存するのは東壁及び床面の僅かな部分である。切り合い関係はＨ１に切られＨ４・Ｈ 15、Ｍ３を切る。残存規模は南北壁長 18 m、東西 25 cm、確認面からの深さ 40 cm を測る。遺構の大半が失われているため、得られた情報は僅かである。

遺物は本住居址のものと断定できるものは出土しなかった。本住居址は切り合い関係から古墳時代～奈良時代と考えられる。

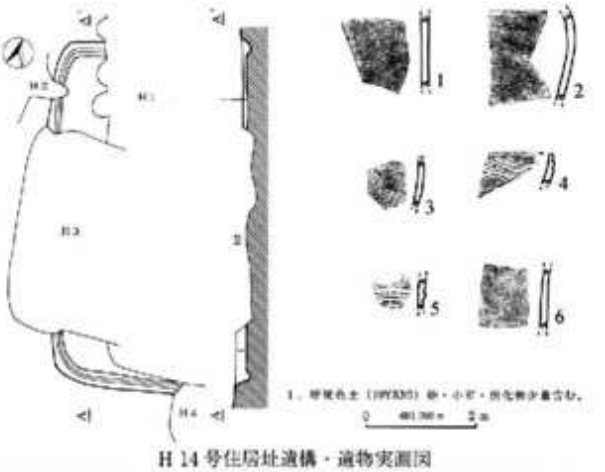


H 13 号住居址実測図

H 14 号住居址

遺構は調査区中央のやや西寄りに位置し、多くを周辺の遺構に破壊されている。規模は南北 5.9 m 、東西は調査規模の最大で 2.3 m 、確認面から床面までの深さは 10 cm 内外を測る。平面形態は方形又は長方形と思われる。床面はやや硬い程度で、土間状ほどではない。壁際に周溝が存在するが、ピット、炉などの施設は認められなかった。

遺物は弥生時代中期後半～後期の土器片が出土した。本住居址は弥生時代としたい。



H 14 号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存部・部位	備考
1	弥生式土器	壺	－	－	－	外面ハケナデ　内面ナデ	胴部破片	明赤褐色
2	弥生式土器	壺	－	－	－	外面ハケナデ　内面ナデ	胴部破片	明赤褐色
3	弥生式土器	甕	－	－	－	外面横位刷毛目文　内面ミガキ	胴部破片	黒褐色
4	弥生式土器	壺	－	－	－	口縁部縄文　口縁外面縄文・山形沈線文　内面ミガキ	口縁破片	灰褐色
5	弥生式土器	壺	－	－	－	外面縄文　頸部沈線文	頸部破片	純い黄橙色
6	弥生式土器	壺	－	－	－	外面ハケナデ　内面ナデ	頸部破片	明赤褐色

H 14 号住居址遺物観察表

H 15 号住居址

遺構は調査区中央のやや北に位置し、大半は周辺の住居址によって破壊されている。切り合い関係はH 1 ・4 ・11・13 に切られる。調査規模は南北 1.8 m、東西 1.2 m、確認面から床面までの深さは 5 ～ 10 cm を測る。残存した床面はやや硬い。周溝、ピット、炉等の施設は認められなかった。

遺物は弥生時代中期後半～後期の土器片が僅かに出土した。本住居址は弥生時代後期のH 11 に切られることから弥生時代中期後半～弥生時代後期としたい。

H 15 号住居址実測図

H 16 号住居址

遺構は調査区東端に位置するが大半は調査区域外となる。調査規模は南北 2.2 m、東西 1.0 m、確認面から床面までの深さは 24 cm を測る。床面はやや硬さを持つが土間状ほどではない。調査箇所から周溝、ピット、炉などの施設は認められなかった。掘方は 16 cm 内外の厚みで黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は表面に縄文又は赤色塗彩された弥生式土器片が出土した。

本住居址は出土遺物から弥生時代中期後半～後期としたい。

H 16 号住居址遺構・遺物実測図

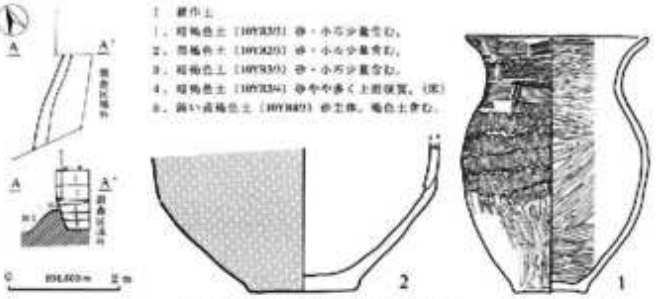
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存部・部位	備考
1	弥生式土器	壺	－	－	－	外面帯状に縄文	頸部破片	黄褐色
2	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描波状文　内面ミガキ	胴部破片	明褐色
3	弥生式土器	甕	－	－	－	外面櫛描直線文　横位波状文	縁片	黄褐色
4	弥生式土器	壺	－	－	－	外面赤色塗彩　櫛描波状文　内面剥離	底部破片	外面赤色・橙色
5	弥生式土器	壺	－	－	－	外面赤色塗彩	破片	外面赤色
6	弥生式土器	壺	－	－	－	外面赤色塗彩	破片	外面赤色

H 16 号住居址遺物観察表

H 17 号住居址

遺構は調査区南東端に位置し、大部分は調査区域外となる。切り合い関係はM 1 に切られ、H 9 と切り合い関係にある。調査規模は東西 70 cm、南北 1.6 m 、確認面から床面までの深さは 40 cm を測る。

遺物は弥生時代後期と思われる甕・壺等が出土した。遺物の特徴及び調査状況ではH 9 を切る弥生時代後期の住居址と思われるが、調査範囲が僅かなため確定はできない。



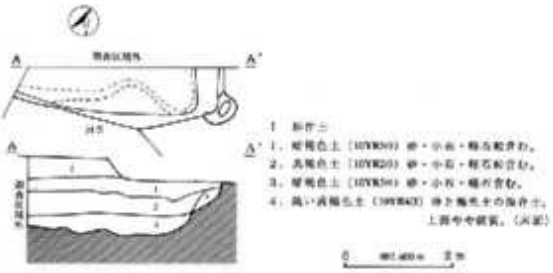
H 17 号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	壺	16.7	6.6	23.3	外面櫛描波状文　頸部櫛描横状文　頸下部縦ミガキ　内面横・斜めミガキ	80	淡い黄褐色
2	弥生式土器	壺	-	9.5	-	外面赤色塗彩	底部から頸部下半	外面赤色　内面淡い黄橙色

H 17 号住居址遺物観察表

H 18 号住居址

遺構は調査区北西端に位置し、大部分が調査区域外となる。切り合い関係はH 2 を切る。調査規模は南北 1.1 m、東西 3.7 m、確認面から床面までの深さは 60 cm を測る。床面上から周溝、ピット、カマド等の施設は認められなかった。覆土内からは弥生時代中期後半～古墳時代と思われる土器片が出土した。試掘調査の結果では本住居址の北側に複数の遺構が認められていることから、今回の調査範囲内においても重複している可能性が考えられる。調査範囲が僅かなため詳細及び時期の確定はできなかった。

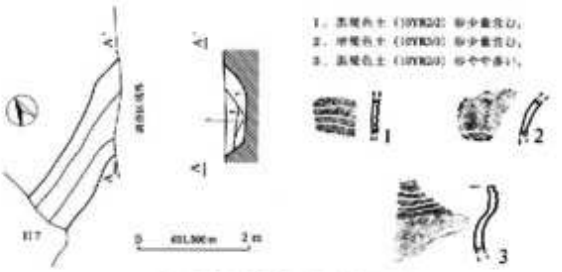


H 18 号住居址実測図

2　溝跡

M 1 号溝跡

遺構は調査区南東端付近を北東方向から南西方向に向かって存在し、H 9 を切り、H 7 に切られると思われる。調査規模は長さ 2.8 m 、確認面での最大幅 90 cm、底幅 40 cm、確認面から底までの深さは 45 cm を測る。覆土内からは弥生時代中期後半から後期の土器が出土した。本溝跡は弥生時代中期後半と思われるH 9 を切ることから弥生時代後期としたい。



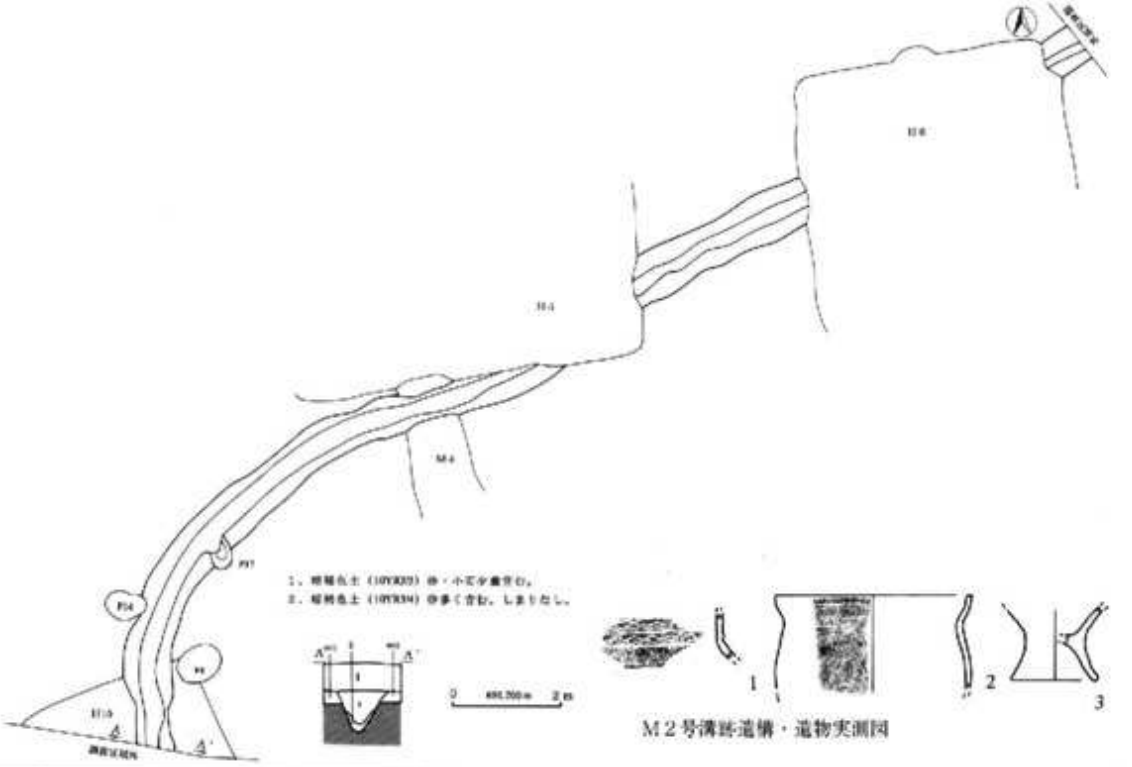
M 1 号溝跡遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	壺	-	-	-	外面横走沈線・縄文　内面ミガキ	頸部破片	黒色
2	弥生式土器	壺	-	-	-	外面横走沈線・縄文　口縁外面縦ハケ目	頸部破片	淡い黄橙色
3	弥生式土器	壺	-	-	-	口唇部・口縁部縄文　口頸横走沈線　口縁内外面ミガキ	口縁破片	淡い黄褐色

M 1 号溝跡遺物観察表

M 2 号溝跡

遺構は調査区東側から調査区内にてやや方向を南に変えて存在し、H 10 を切り、H 6 ・ 4 、M 4 に切られる。残存範囲は 3 箇所に分断され、規模は東側残存部で東西長 78 cm、確認面上での幅 72 cm、底幅 18 cm、確認面から底までの深さは 30 cm を測る。中央残存部で東西長 3.6 m、確認面上での最大幅 95 cm、底幅 35 cm、確認面から底までの深さは 45 cm を測る。西側残存部は長さ 10.6 m、確認面上での最大幅 90 cm、底幅 36 cm、確認面から底までの深さは 55 cm を測る。覆土からは弥生時代中期後半から後期の土器片が多数出土した。本溝跡は弥生時代中期後半としたH 10 を切ることから弥生時代中期後半から後期としたい。



M２号溝跡遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	壺	－	－	－	頸部櫛描波状文・山形沈線文	頸部破片	橙色
2	弥生式土器	甕	[17.8]	－	－	口縁部破片 口唇外面櫛描刻目文 頸部櫛描波状文 頸部以下縦方向ヘラケズリ 内面横ミガキ	口縁～頸部破片	褐色
3	弥生式土器	高坏or台付壺	－	[8.0]	－	外面ケズリ・ハケナデ・ミガキ　脚部内面ヘラケズリ	脚部～坏部破片	橙色

M２号溝跡遺物観察表

M３号溝跡

遺構は調査区を東西方向に横切るように存在し、H１・３・４・６に切られる。残存範囲は２箇所に分断され、規模は東側残存部で東西長3.2 m、確認面での最大幅1.6 m、底幅1.2 m、確認面から底までの深さ35 cm を測る。西側残存部は東西長2.9 m、確認面での最大幅1.1 m、底幅80 cm、確認面から底までの深さ25 cm を測る。覆土は黒褐色土と暗褐色土で、覆土内からは弥生時代中期後半から奈良時代の土器片が出土したが主体は弥生時代の土器である。本溝跡は弥生時代としたい。

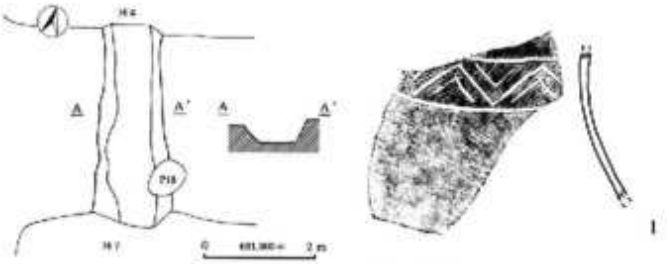
M３号溝跡遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	壺	－	－	－	外面赤色塗彩　頸部櫛描波状文　内面ナデ	破片	外面赤色・淡い黄橙色
2	弥生式土器	甕	－	－	－	外面櫛描波状文	破片	褐灰色
3	弥生式土器	甕	－	－	－	外面櫛描斜格文	破片	明黄褐色

M３号溝跡遺物観察表

M４号溝跡

遺構は調査区南を南北方向に延びる形で存在し、Ｈ４・７に切られ、Ｍ２を切る。確認規模は長さ 3.6 m 、確認面での最大幅 1.3 m 、底幅 80 cm、確認面から底までの深さは 35 cm を測る。遺物は弥生時代中期後半から後期の土器片が多数出土した。出土遺物の状況及び弥生時代中期後半から後期のＭ２を切ることから、本溝跡は弥生時代後期としたい。



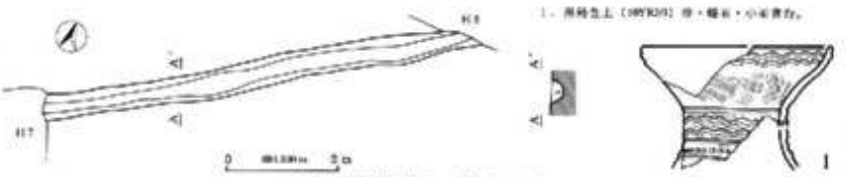
Ｍ４号溝跡遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	壺	－	－	－	頸部横位に櫛状工具による刺突文・横走沈線文・沈線上マハケナデ 肩部ヘラケズリ	頸部破片	橙色

Ｍ４号溝跡遺物観察表

Ｍ５号溝跡

遺構は調査区東から南西方向にかけて認められ、西側はＨ７に切られ消滅する。確認規模は長さ 7.6 m、確認面での最大幅 48 cm、底幅 40 cm、確認面から底までの深さ 30 cm を測る。遺物は弥生時代後期の土器片が出土した。本溝跡は弥生時代後期としたい。

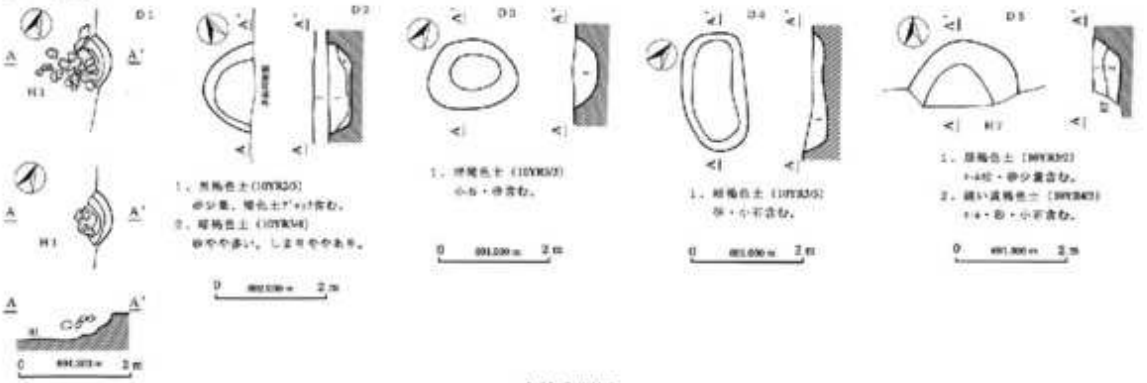


Ｍ５号溝跡遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生式土器	壺	[17.3]	－	－	口縁外面山形文・櫛状沈線文・沈線上マハケナデ 外面ハケナデ 内面ヘラケズリ	口縁～頸部	橙色

Ｍ５号溝跡遺物観察表

3　土坑



土坑実測図

Ｄ１号土坑

遺構はＨ１号住居址東壁付近に位置する。調査では新旧関係が逆となったが、本遺構がＨ１を切る。正確な規模・形態は不明である。土坑内に集石が存在した。遺物は弥生式土器片及び土師器片が出土したが土師器片が主体である。奈良時代のＨ１を切ることから、奈良時代以降の遺構と考えられる。

Ｄ２号土坑

遺構は調査区東の調査区境に位置し、半分程度は調査区域外となる。平面形態は確認状況から円形又は楕円形と思われる。規模は南北 1.6 m、東西は調査規模で 95 cm、確認面から底までの深さは 40 cm を測る。遺物は弥生時代中期後半から後期の土器片が多数出土した。本土坑は弥生時代としたい。

Ｄ３号土坑

遺構は調査区東に位置する。形態は不整円形で規模は東西径 1.6 m、南北径 1.25 m、確認面から底までの深さは 45 cm を測る。時期は不明である。

D４号土坑

遺構は調査区東に位置する。形態はほぼ南北方向に長い楕円形に近い隅丸方形である。規模は南北2.2 m、東西1.2 m、確認面から底までの深さは最大32 cmを測る。時期は不明である。

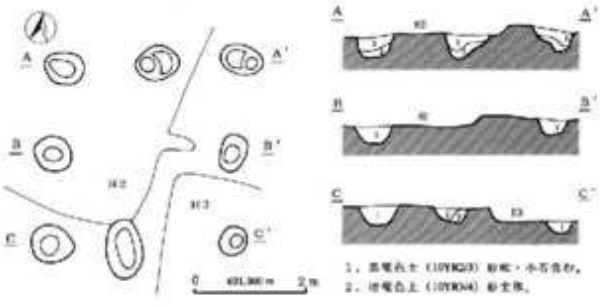
D５号土坑

遺構は調査区南に位置し、Ｈ７に南側を切られる。形態は残存状況から円形又は楕円形と思われる。規模は東西2.0 m、南北は残存規模で1.2 m、確認面から底までの深さは50 cmを測る。時期は不明である。

４　掘立柱建物址

Ｆ１号掘立柱建物址

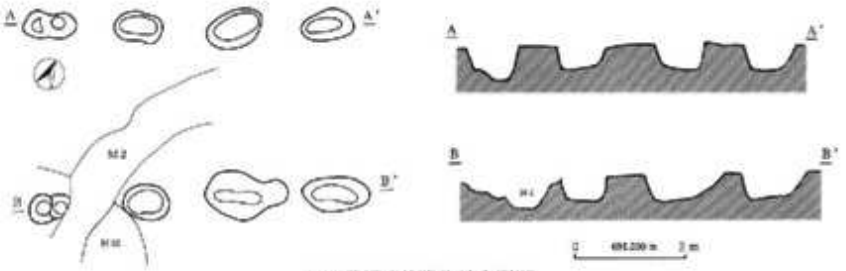
遺構は調査区西に位置し、２×２間の側柱である。切り合関係は、Ｈ２、３を切る。ピット形状は円形もしくは楕円形である。ピット間は南北１m内外、東西は65 cm～1.4 mを測る。遺物はピット内から土師器片が出土した。古墳時代と思われるＨ２を切ることから本掘立柱建物址は古墳時代後期以降としたい。



Ｆ１号掘立柱建物址実測図

Ｆ２号掘立柱建物址

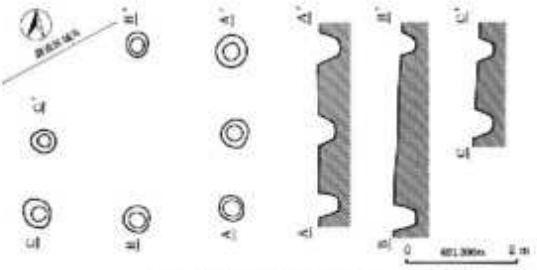
遺構は調査区南西に位置し、３×１間と思われる。ピット形状は楕円形で長径90～140 cm、短径66～85 cm、深さは44～59 cmを測る。ピット間は東西80 cm、南北2.2～2.4 mを測る。ピット内からは弥生時代の土器片が出土した。弥生時代としたい。



Ｆ２号掘立柱建物址実測図

Ｆ３号掘立柱建物址

遺構は調査区北に位置し、Ｈ１・11・12を切る。２×２間の側柱である。ピット形状はほぼ円形で、径は28～56 cm、深さは28～39 cm、ピット間は南北90 cm、東西120 cmを測る。奈良・平安時代の住居址を切ることから平安時代以降としたい。



Ｆ３号掘立柱建物址実測図

調査区全景（西から）

調査風景（西から）

Ｈ１号住居址全景（西から）

Ｈ１号住居址掘方（西から）

Ｈ２号住居址全景（南から）

Ｈ３号住居址全景（南から）

Ｈ３号住居址カマド（南から）

Ｈ３号住居址カマド（南から）

Ｈ３号住居址掘方（南から）

Ｈ４号住居址全景（北西から）

Ｈ４号住居址遺物出土状況

Ｈ４号住居址掘方（北西から）

Ｈ５号住居址全景（西から）

Ｈ５号住居址炉址

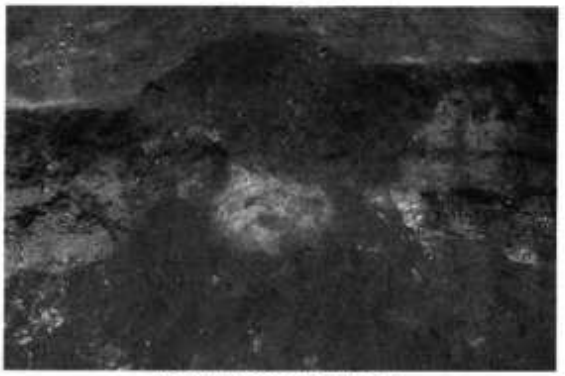
Ｈ５号住居址掘方（南西から）

Ｈ６号住居址全景（南から）

Ｈ６号住居址カマド（南から）

Ｈ６号住居址掘方（南から）

Ｈ７号住居址全景（南西から）



Ｈ７号住居址カマド（南から）

Ｈ７号住居址集石（北西から）

Ｈ７号住居址掘方（南西から）

Ｈ８号住居址全景（南から）

Ｈ８号住居址カマド（南から）

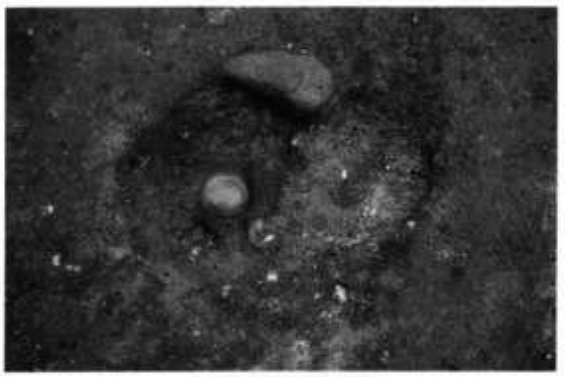
Ｈ８号住居址掘方（西から）

Ｈ９号住居址全景（北から）

Ｈ１０号住居址全景（北から）

Ｈ１０号住居址掘方（北から）

Ｈ１１号住居址全景（南から）



Ｈ１１号住居址炉址

Ｈ１１号住居址土坑

Ｈ１１号住居址土坑遺物

Ｈ１１号住居址掘方（南から）

Ｈ１２号住居址全景（南から）

Ｈ１３号住居址全景（北西から）

Ｈ１４号住居址全景（北から）

Ｈ１５号住居址全景（西から）

Ｈ１６号住居址全景（北から）

Ｈ１７号住居址全景（西から）

Ｈ１８号住居址全景（東から）

M１号溝跡全景（南西から）

M３号溝跡全景（西から）

M４号溝跡全景（南西から）

M２号溝跡全景（西から）

M５号溝跡全景（西から）

D１号土坑全景（北から）

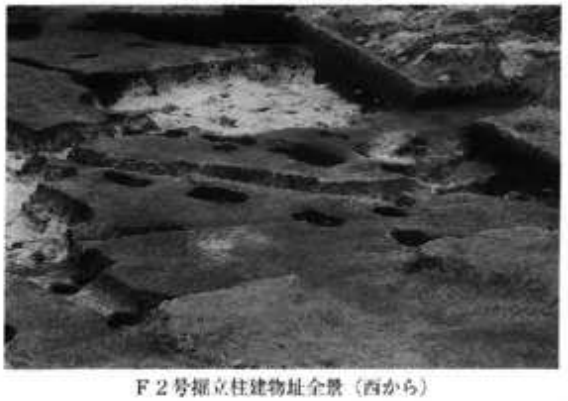
H２号土坑全景（西から）

D３号土坑全景（南から）

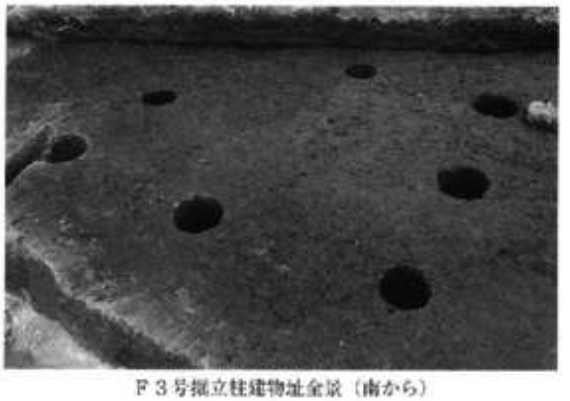
D４号土坑全景（南西から）

D５号土坑全景（東から）

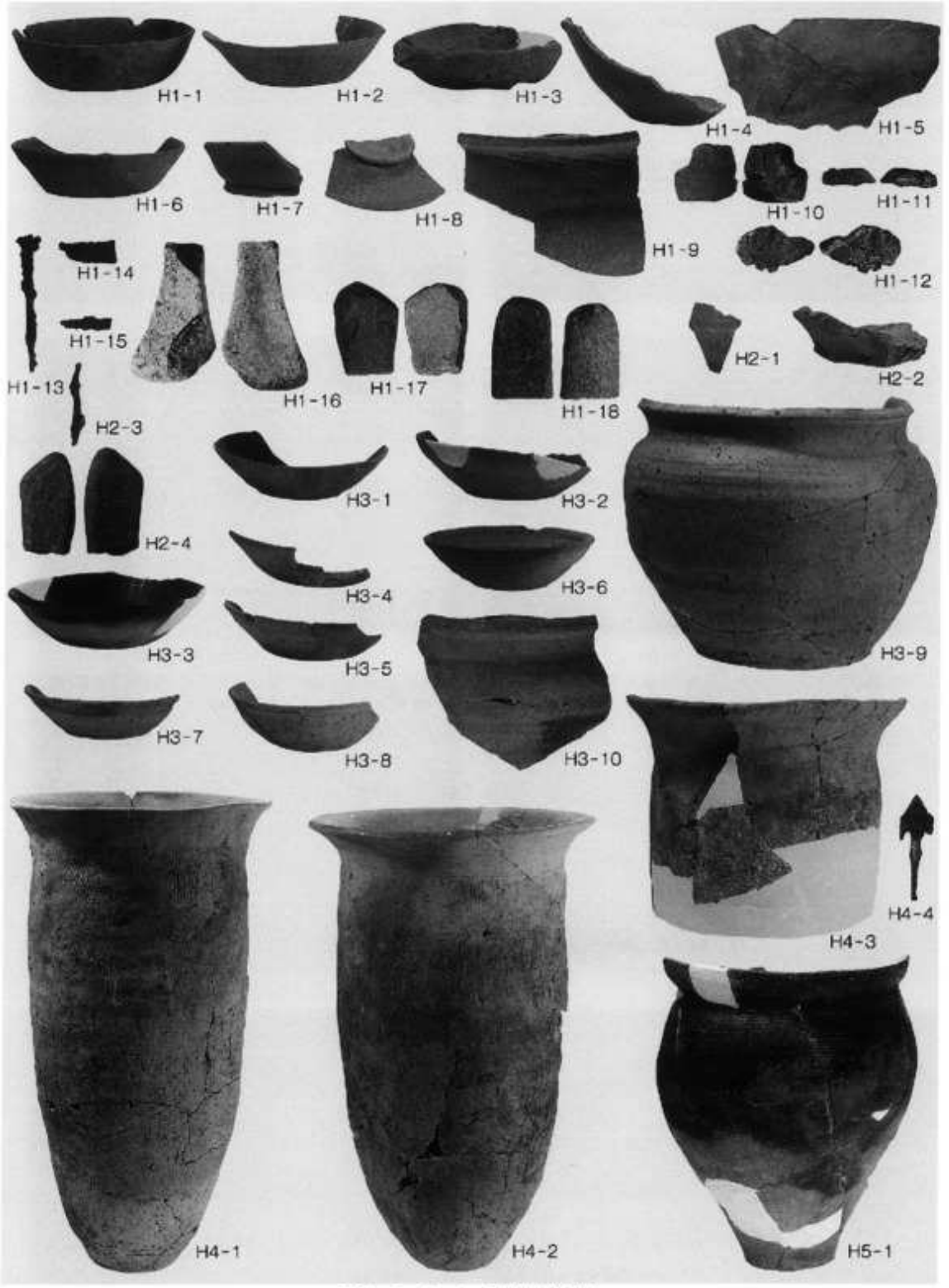
F１号掘立柱建物址全景（南から）



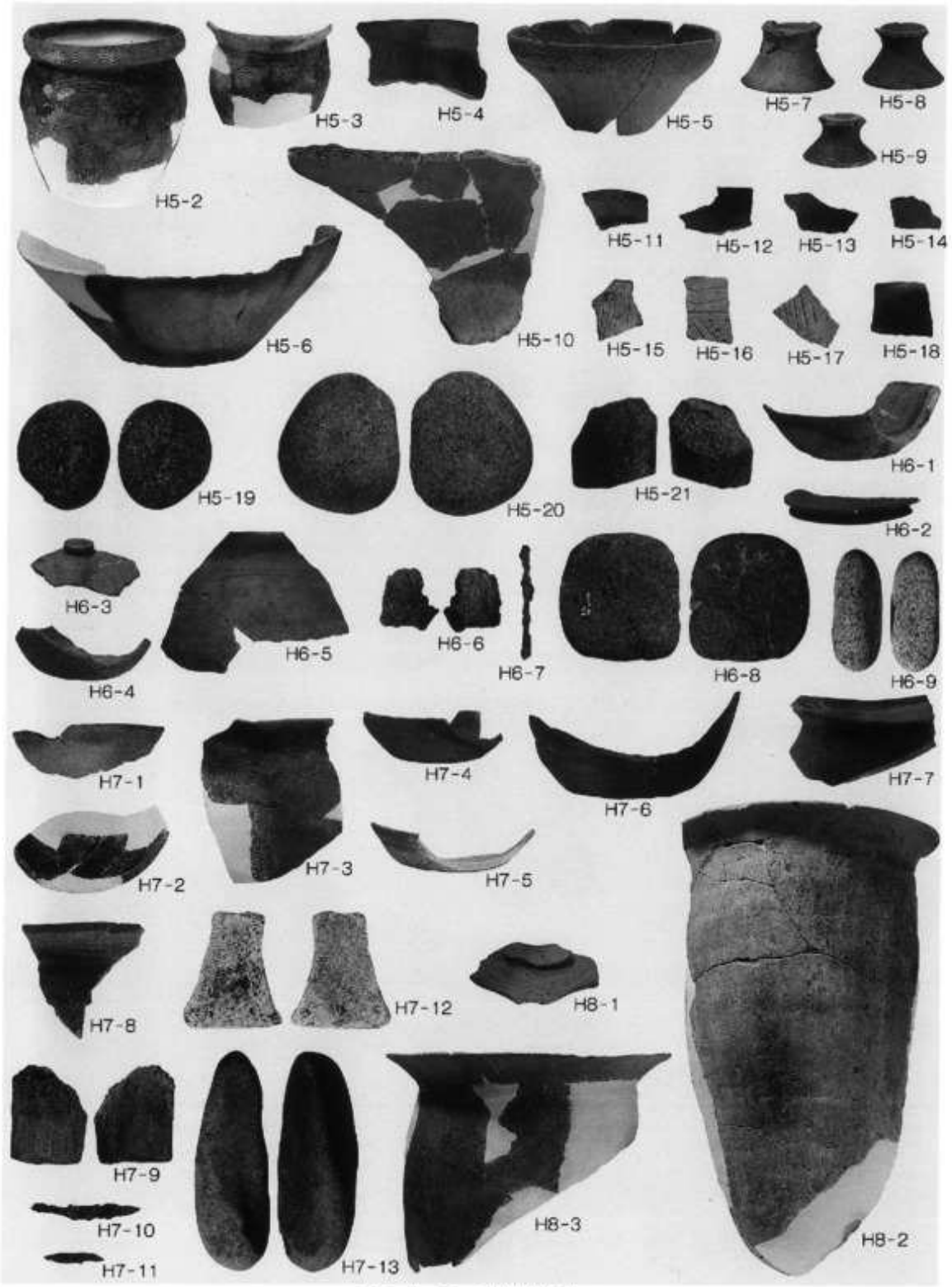
F２号掘立柱建物址全景（西から）



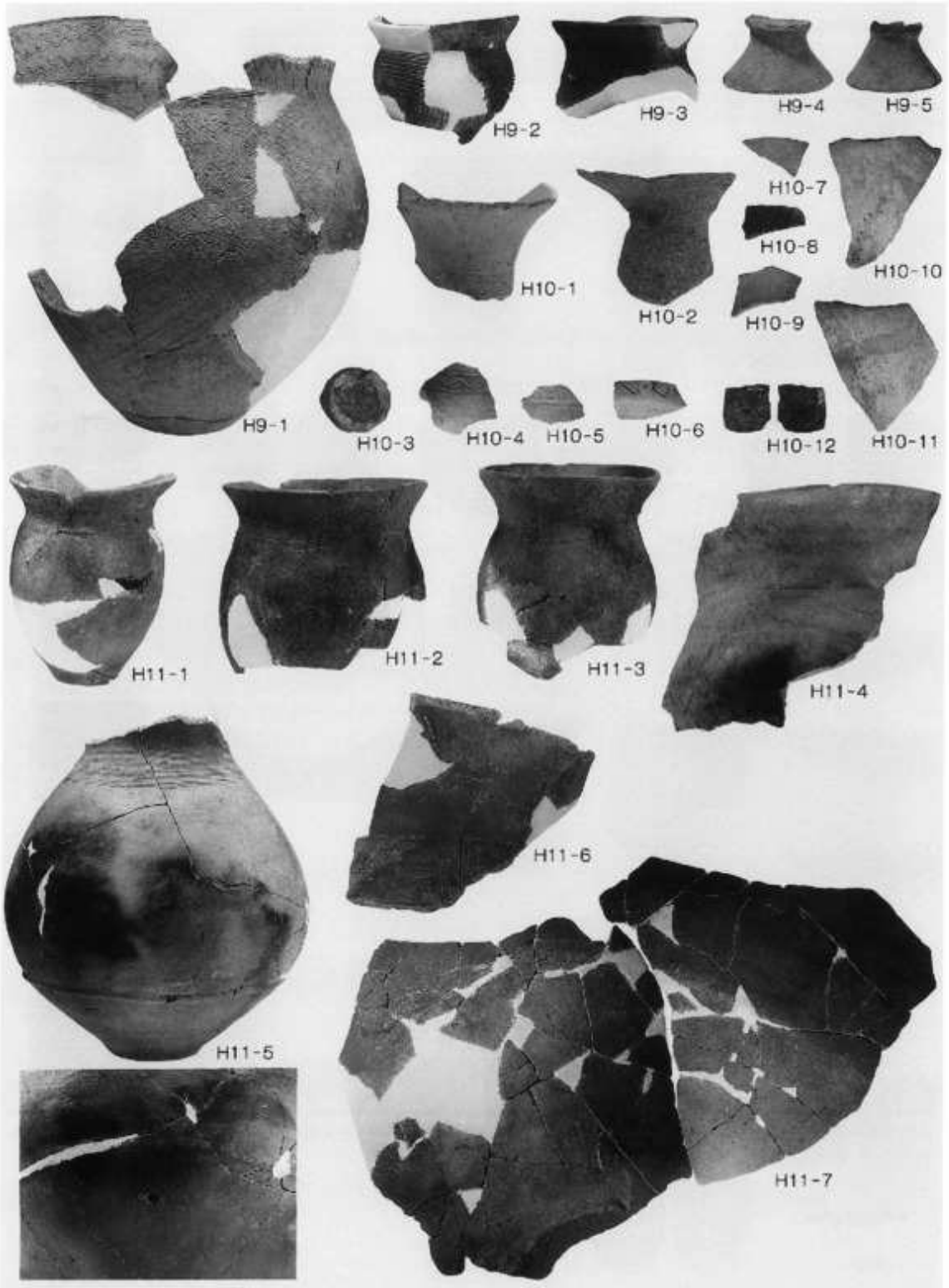
F３号掘立柱建物址全景（南から）



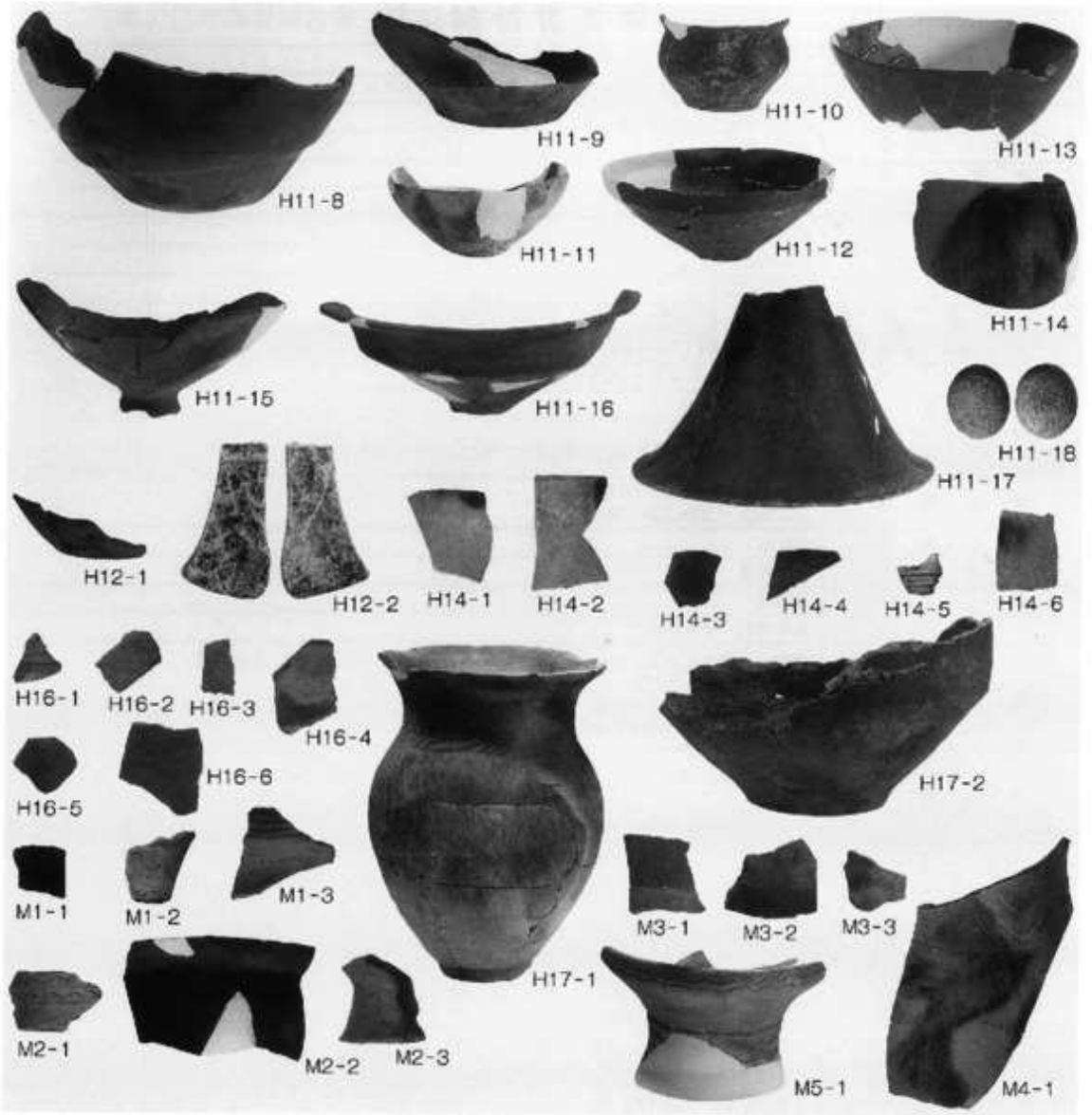
H1・2・3・4・5号住居址遺物



H5・6・7・8号住居址遺物



H9・10・11号住居址遺物



H 11・12・14・16・17 号住居址、M 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 号溝跡遺物

報告書抄録

書名	岩村田遺跡群　西一本柳遺跡ＸＶ
ふりがな	いわむらだいせきぐん　にしいっぽんやなぎいせきじゅうご
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第154集
編著者名	上原　学
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2008. 3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	岩村田遺跡群　西一本柳遺跡ＸＶ（INP ＸＶ）
遺跡所在地	佐久市岩村田字常木上2329番地1
遺跡番号	52
経度	36.16.33
緯度	139.48.29
調査期間	2007.6.8～2007.7.5（現場） 2007.6.12～2008.3.28（整理）
調査面積	320㎡
調査原因	店舗新築
種別	集落址
主な時代	弥生時代～平安時代
遺跡概要	遺構　竪穴住居址18軒（弥生～平安時代）、掘立柱建物址3棟、土坑5基、溝跡5条、ピット 遺物　土器（弥生・古墳・奈良平安）、石製品（弥生～平安時代）、羽口、鉄製品（奈良平安時代）
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第154集
岩村田遺跡群　西一本柳遺跡ＸＶ
2008年3月
編集・発行　佐久市教育委員会
〒385-8501　長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006　長野県佐久市志賀5953
TEL 0267-68-7321
印刷所　臼田活版株式会社